

生活科・総合的な学習の時間

令和4年度 単元プラン関連集

令和5年3月 大分大学教育学部附属小学校

3年1組

植物染めに挑戦しよう！

附属小 3年 1組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	植物染めの良さや自然の素材の価値											
単元名	植物染めに挑戦しよう！											
単元の目標	植物染めの方法を活用し「学級のめあて」を作る活動を通して、染色の技法や自然の色のよさを理解し、身近にある自然の素材の価値に気づくことができるようにする。											
	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) 校長先生から自然の色作りを学ぼう				(小単元2のめあて) 擦り染めで「学級のめあて」作りに挑戦しよう				(小単元3のめあて) 一年間の総合の成果をお家の人に伝えよう			
	学習活動		育成を目指す資質・能力		学習活動		育成を目指す資質・能力		学習活動		育成を目指す資質・能力	
年 間 計 画	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花を使って色水・絵の具作りを行う。 <p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達で行った色作りの技法を生かして何か作品を作ることができないか、また、さらに良い色を出すための技法がないか、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの力でできそうな作品や色作りの方法について考え、校長先生からアドバイスを受ける。 ◆校長先生のアドバイスを聞き、「学級のめあて作り」という目的に合った植物染めの技法を学ぶ。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に擦り染めを行いながら、擦り染めに適した布や草花について整理する。 ◆擦り染めの実験結果から、適した布や草花について整理する。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から分かったことをまとめ、「学級のめあて」作りに活かす。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆擦り染めの技法を使えば、身近な植物で綺麗な作品を作ることができそう ◆「学級のめあて」作りに擦り染めを活用したい ◆良い「学級のめあて」にするためにデザインなどの工夫をしたい 		<p>色作りの学習から、植物染めについての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。(B-①)</p> <p>植物染めによる染色方法やその活用方法などを理解するために必要な情報を、校長先生からのアドバイスをもとに収集している。(B-②)</p> <p>擦り染めに適した植物について、実験結果を比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、見付けている。(B-③)</p> <p>学級のめあてに適した植物を選び、擦り染めの技法を使って、表現している。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擦り染めの技法を使って文字を印字することについて、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を印字する方法について考え、実験し、どのような結果になるか情報を収集する。 ◆素材の違いによってどのような違いになるか調べる。 ◆染める以外の方法として、縫う、書くなどの方法を試す。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適した印字の方法について、整理・分析する。 ◆はっきり文字が見えやすい素材は何か ◆周りの飾りに合う色合いは何か ◆布を傷つけたり、失敗したりしにくい方法は何か <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適した印字の方法を選び、実際に「学級のめあて」の作成に生かす。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆どんな方法が文字の印字に適しているか分かった。 ◆植物の良さを生かして擦り染めで良い「学級のめあて」ができた。 ◆試しながら、より良い方法を選ぶことができた。 		<p>小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>擦り染めで文字を印字するために必要な情報を、様々な手段をもとに選択し収集している。(B-②)</p> <p>擦り染めによる印字の実験結果について、比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、見付けている。(B-③)</p> <p>学級のめあての印字に適した方法を選び、擦り染めの技法を使って、表現している。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがやってきた植物染めの学習の成果を伝えるための課題を設定する。 ◆自分たちがやってきた植物染めの学習の成果を、お家の人に伝えよう。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出に残る場面は何か考え、写真を集める。 ◆思い出の場面とその理由について、話し合う。 ◆iPadで伝えたい場面の写真を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた写真を使って、発表のためのスライドを作成する ◆どんな流れで発表するとわかりやすいか ◆一つのスライドの構成はどのようにすれば伝わりやすいか <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAの際に、スライドを使って、お家の人へ植物染めの学習の成果を伝える。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自然にある草花の色のよさを知り、大切にしたいと思った。 ◆上手にできるか分からなかったけど、とにかく試して最後には成功したので、頑張って良かった。 ◆校長先生から植物染めの技法を覚えてもらえことが活かせて良かった。 ◆植物染めの技法や面白さがわかった。 		<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>植物染めを通した学びをまとめるために必要な情報を、様々な手段をもとに選択し収集している。(B-②)</p> <p>植物染めを通した学びについて、集めた情報から分かる様々な事実について、事象を比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、自分の学びに即した発表の方法を見付けている。(B-③)</p> <p>擦り染めや絞り染めなどの染色方法や植物染めのよさについて、相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	

期待される概念的な知識（多様性）：個々の素材や手順の違いによって色合いが変わる植物染めの良さや、自然の草花の素材としての価値を理解している。

単元の目標

植物染めの方法を活用し「学級のめあて」を作る活動を通して、染色の技法や自然の色のよさを理解し、身近にある自然の素材の価値に気づくことができるようにする。

単元名

単元の評価規準

3-1

植物染めに挑戦しよう！

A 知識・技能

- ①知識
植物染めによる染色方法やよさについて調べる活動から、植物染めの特徴や自分たちの生活との関わりが分かる。
(多様性)
- ②技能
植物染めのよさを伝えるために、相手や目的に応じて表現方法を工夫したり、他教科で身に付けた知識を関連付けて活用したりしている。
- ③探究的な学習のよさ
色づくりや染色と自分たちの生活とのつながりを考え、探究的な学習のよさに気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
色作りの学習から、植物染めについての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。
- ②情報の収集
植物染めによる染色方法やその活用方法などを理解するために必要な情報を、様々な手段をもとに選択し収集している。
- ③整理・分析
集めた情報から分かる様々な事実について、事象を比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、多様な情報の中にある特徴を見つけている。
- ④まとめ・表現
擦り染めや絞り染めなどの染色方法や植物染のよさについて、相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、自分自身の生活や次の課題に生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
自分たちで見つけた課題の解決に向けて、身近な人と協働して探究活動に取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
植物染めに関心をもち、自分にできることや他者の意見を受け入れることのよさに気付きながら、課題解決に向けて取り組もうとしている。
- ③社会参画・将来展望
自然の素材の価値に気付き、学習したことをもとに日常生活で植物染めを活用したり、植物染めを伝えたりするなど、植物染めの面白さや工夫を生活に生かそうとしている。

【単元の目標】
植物染めの方法を活用し「学級のめあて」を作る活動を通して、染色の技法や自然の色のよさを理解し、身近にある自然の素材の価値に気づくことができるようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

- ①**知識の概念化**
植物染めによる染色方法やよさについて調べる活動から、植物染めの特徴や自分たちの生活との関わりが分かる。(多様性)
- ②**技能**
植物染めのよさを伝えるために、相手や目的に応じて表現方法を工夫したり、他教科で身に付けた知識を関連付けて活用したりしている。
- ③**探究的な学習のよさ**
色づくりや染色と自分たちの生活とのつながりを考え、探究的な学習のよさに気付いている。

【子どもの振り返り】	【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）	【言えそうなこと】
<p>・私は染め方や模様の付け方などを色々調べたり考えたりして、「考えたり調べたりしたことを参考に、何かをするという力」がつきました。校長先生に教えてもらった「擦り染め」を使ってこんなに良い作品ができてびっくりしたし、何回も重ねることで良い作品ができるんだと分かったからです。</p> <p>・総合の学習で、ねばる力がつきました。わけは、ねばる力は何かを試して失敗したらもう一度やり方を変えて何かを試すことができたからです。そして、総合の学習は学年テーマの勇氣にもつながると思います。わけは、失敗するか成功するか分からなくても一回試してみようという気持ちになれたからです。</p> <p>・思い出は擦り染めのことです。なぜかというと、実習生たちと頑張った作品だからです。そして、頑張った一杯みんなで擦った作品だからです。PTAの時に、今までして来たことの全てが発表できてよかったなと思いました。</p>	<p>①GT（校長先生）から教わった技法の習得 色水づくりや絵の具づくりでの失敗体験をもとに、自然の素材を使ったより良い色作りの方法を学んだ。身近にある植物と布を使って、自然の良さを活かすことができる擦り染めの技法を教もらうことで、「自分たちにもできそうだ。やってみたい。」を生むことができた。普段直接関わることの少ない校長先生から教わったとも、学習意欲につながった。</p> <p>②学級のめあてとハンカチづくりによる試行錯誤 擦り染めの技法を生かして「学級のめあて」の制作を行った。大布に一人ひとりが擦り染めを行うことで、主体的に活動を行わせることができた。草花の選び方や置き方によるデザインの工夫ができた。適した布の材質や文字の部分染色の方法などを試行錯誤したり、探究に値する題材であった。発展的な活動として行った絞りぞめについても、玉ねぎの皮という身近な素材を用いながら手順や重要な工程を抜きにしては成功しないことから、試行錯誤ができる良い題材であったと思われる。</p> <p>③学習の過程を表現するためのICT活用 長期にわたる学習の過程を整理し、表現することは、3年生の児童にとって容易ではない。iPadを使って、思いの写真を選択させ、スライドを作成させることで、学習の過程を整理し、表現させることができた。同じ学習過程を辿っていても、どこに焦点化して整理するかは、個々に違いがあり、主体的に情報を活用する姿が見られた。また、整理・表現する作業そのものが、学習過程の振り返りであった。</p>	<p>A-① GTから技法を習得することが有効である。特に、「この先どうすれば良いのか」と、問題を抱えた状態での交流だったため、自分たちに適した技法を意欲的に取り入れようとする姿が見られた。</p> <p>A-② 技法を生かした題材の設定に際しては、「学級のめあて」のような、自分ごととして目的を明確化できるものが良い。その中で、適切な工程や手順などについて、試行錯誤する余地のあるものであればなお良い。</p> <p>A-③ 長期にわたる学習の過程をまとめ、表現させるには、それを可能にさせるツールが重要である。iPadとロイロノートは、学習過程を蓄積し、必要な情報を選びながらまとめ、表現させるために適している。</p> <p>植物染めの単元においては、色作りなどテーマに繋がる活動から困りを生み、GTから技法の習得を行わせ、目的のある作品作りを通して試行錯誤させるような学習過程が有効である。</p>



3年2組

3の20PAMを開いて
来た人を楽しませよう

附属小 3年 2組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	人々の感性を豊かにする OPAM の取組と美術作品の面白さ
単元名	3の2OPAM を開いて、来た人を楽しませよう
単元の目標	大分の人々を楽しませる OPAM の取組や関わる人との活動を通して、作品作りの面白さに気づき、工夫しながら展覧会を開くことができる。

年間計画	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(小単元1のめあて) OPAM 探検に行き、魅力を見付けよう			(小単元2のめあて) 色を作ってみよう			(小単元3のめあて) 3の2OPAM を開いて作品を見てもらおう				
	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力		
	<p>【導入】 ・自分たちのお面が飾られた OPAM に行き、OPAM に飾られている物や作品に興味を持たせる。</p> <p>【課題の設定】 ・地域にある OPAM にはどんな魅力があるか予想し、調べる方法やについて話し合い、OPAM の魅力を調べる課題を設定する。</p> <p>【情報収集】 ・OPAM の魅力を予想し、調べ方を考えたり、魅力を見付けたりする。 ◆インターネットで調べる。 ◆実際に OPAM に行き、魅力を確認したり、見付けたりする。</p> <p>【整理・分析】 ・OPAM に行き見つけた魅力を整理する。 ◆OPAM の作品や工夫について、分かったことを整理する。</p> <p>【まとめ・表現】 ・OPAM の魅力について分かったことをまとめる。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆OPAM には面白い作品があった ◆もっと OPAM の作品をみたい ◆OPAM みたいな作品を作ってみよう</p>	<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>OPAM 探検をして、必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類などして具体的な内容を決定している。(B-③)</p> <p>目的に応じてノートにまとめている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】 ・OPAM のワークショップのように美術を楽しむことはできないか考え、課題を設定する。 ◆OPAM のように自分たちで色を作ってみよう。 ◆植物を使えば色が作れるかな。 ◆石でもできるらしい。</p> <p>【情報収集】 ・色を作るためには、どんな材料があればよいか、自分の生活経験から考えたり、試してみたり、詳しい人に聞いたりして情報を集める。 ◆花を使えば色水ができた。 ◆色の濃い野菜は水を足さなくても色ができた。 ◆石でも色が作れるらしい。 ◆植物から色はできたけど、石はどうすれば色が作れるんだろう。色作りに詳しい校長先生に聞いてみたい。</p> <p>【整理・分析】 ・石を材料にした色作りについて、色作りに詳しい校長先生から聞いたことを整理・分析する。 ◆必要な材料 ◆方法 ◆コツ</p> <p>【まとめ・表現】 ・石を材料にした色作りを行い、身近な物で色作りができることに気付くと共に、OPAM のように楽しんで美術活動ができ、自分のコレクションが増えたことを実感する。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆色作りは楽しい。 ◆OPAM のように美術活動を楽しむことができた。 ◆自分だけのコレクションができた。</p>	<p>小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>校長先生やインターネットから必要な情報を収集している。(B-②、C-①)</p> <p>集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして、自分なりの考えで色作りに必要な方法を決定している。(B-③)</p> <p>色作りについて、目的に応じてノートにまとめている。(A-①、B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】 ・OPAM のように、自分たちの作品を集めて、多くの人に見てもらうための課題を設定する。 ◆自分たちの作品を飾って、3の2OPAM を開き、家族や附属小の人に目にきてもらおう。</p> <p>【情報収集】 ・3の2OPAM を開くためにはどんな物や事が必要なか、情報を収集する。 ◆今あるものをもとに、見せ方や足りないものを話し合う。 ◆校長先生に聞く。</p> <p>【整理・分析】 ・アドバイスを整理・分析し、飾り方を工夫したり、説明するための資料を準備したりする</p> <p>【まとめ・表現】 ・3の2OPAM を開き、家族や附属小の人に見てもらい、美術の楽しさに触れてもらう。</p> <p>【振り返り】 ◆OPAM の魅力を知り、美術館を大切にしたいと思った。 ◆美術活動の楽しさや面白さがわかった。 ◆作品を見せる工夫や、難しさを感じた。</p>	<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>校長先生から必要な情報を収集している。(B-②、C-②)</p> <p>集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして、作品展のための具体的な活動を決定している。(B-③)</p> <p>相手や目的に応じて作品に自分の思いを表現している。(A-②、B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③)</p>					

期待される概念的な知識（多様性）：美術館や美術作品の価値は、画一的なものではなく、見る人の感性やつくる人の思いによって多様であることを理解している。

単元目標

大分の人々を楽しませるOPAMの取組や関わる人との活動を通して、作品作りの面白さに気づき、工夫しながら展覧会を開くことができる。

単元名	単元の評価規準		
-----	---------	--	--

3-2

3の2 OPAMを開いて、来た人を楽しませよう

A 知識・技能

- ①知識
美術館や美術作品の価値は、画一的なものではなく、見る人の感性やつくる人の思いによって多様であることを理解している。(多様性)
- ②技能
作品作りや作品展を開く面白さの理解、作品作りのために、必要な事柄を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。
- ③探究的な学習のよさ
美術作品を通して人々を楽しませていることの理解は、作品作りや作品展を開く面白さを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
自分の関心から、地域にあるOPAMについて、施設の見学や作品の面白さから課題を設定し、解決方法を考えている。
- ②情報の収集
作品作りや作品展を開く面白さ、作品作りに必要な情報を、示された手段をもとに選択し、情報を収集している。
- ③整理・分析
美術作品を作ったり、作品展を開いたりするために、示された手法をもとに比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、多様な情報の中にある特徴を見つけている。
- ④まとめ・表現
作品作りや展覧会を開く面白さについて、相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、表現している。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、生活や次の課題につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
自分たちで見つけた課題の解決に向けて、身近な人と協働して探究活動にすすんで取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
作品作りや展覧会に関心を持ち、自分らしさを発揮して作品と向き合い、自分と異なる意見や考えを知り、探究活動に取り組もうとしている。
- ③社会参画・将来展望
作品作りや展覧会を開く面白さに気づき、OPAMのように作品の面白さを全校児童に伝えよう考え、行動している。

【単元の目標】
 大分の人々を楽しませるOPAMの取組や関わる人との活動を通して、作品作りの面白さに気づき、工夫しながら展覧会を開くことができる。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化
 美術館や美術作品の価値は、画一的なものではなく、見る人の感性やつくる人の思いによって多様であることを理解している。(多様性)

②技能
 作品作りや作品展を開く面白さの理解、作品作りのために、必要な事柄を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。

③探究的な学習のよさ
 美術作品を通して人々を楽しませていることの理解は、作品作りや作品展を開く面白さを探究的に学習してきたことの成果であると感じている。

【子どもの振り返り】

石絵の具作りは、作り方が全然わからなくて、インターネットで調べたけど、できなくて悔しかったです。どうすればよいかを校長先生に聞いてみると、大きいつぶと小さいつぶを分けること、材料や道具を準備すること、ろ過することなど、たくさん足りないことがあることが分かりました。校長先生に教えてもらったことを生かして作ってみるとうまくいったうれしかったです。

絞り染めは、インターネットで調べたり、作ったことのある5年生に聞いたりすると、タマネギの皮で染め物ができることが分かりました。1回目は模様がうまくできなかつたり、色を調節できなかつたりしました。もう一度考えて、模様や色のうすさを調整する作戦を立てました。タマネギの皮の量や輪ゴムの使い方をかえると面白い作品ができました。

3の2OPAMを開くために、準備をしたり、練習をしたりして忙しかったけど、来た人が楽しんでいることを考えると、こちらまで楽しくなってきました。来た人が笑顔で帰ってくれているのを見て、やってよかったなと思いました。アンケート結果では127人の人が「来て良かった」と答えてくれたので、目標は達成できたと思いました。

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①OPAMの方の出前授業やOPAM探検を経験することで美術館や美術作品への興味関心を持たせる
 地域にあるOPAMの方による出前授業を通して作品作りの面白さを体験した。作ったお面が飾られているOPAMに行くことで、自分の作品を多くの人に見てもらい喜びや、美術館にある作品の面白さを味わうことで、自分たちも作品を作って、多くの人に楽しんでもらいたいという思いを持つことができた。

②体験活動、表現活動
 植物絵の具作りや石絵の具作り、絞り染めの作品作りを通して、探究のスパイラルを繰り返す行なうことができた。また、作り方や作品の面白さを多くの人に伝えたいという気持ちが強くなり、相手意識や目的意識をもった「3の2OPAM」への開催に繋げることができ、国語で学んだことを活用する場面を位置付けることができた。

③インターネットや専門家の話による情報収集
 体験活動を通して、情報収集、整理分析、表現、振り返りのスパイラルを繰り返すことで、新たな発見や課題が生まれていった。インターネットで調べてやってみても分からないことを、専門家に直接聞くことで課題解決へと繋がったという経験をさせることができた。

体験活動(石絵の具)
 適度な困難さがあり、繰り返し石絵の具作りをする中で上達していく達成感から、ものづくりの魅力に迫ることができた。ものづくりの魅力やそれに携わる人々の思いや願い、技術的な難しさに繰り返し触れる場面を位置付けた。

【言えそうなこと】

A-①
 GTとの交流や体験活動が有効である。1回ではなく複数回継続して行くと良い。

A-②
 失敗や成功を通して伝えたいことが膨らみ、相手意識や目的意識が高まり、他教科で身に付けた力を活用し、表現方法の工夫につながる。

A-③
 体験を通して探究活動を繰り返すことで情報収集、整理分析等の力が付く。

ものづくりの単元においては、失敗を繰り返しながら、必要感を持って情報を収集したり整理したりすることが大切である。



3年3組

自然のもので絵をかいて、
お客さんに味わってもらおう
～「3の3しぜん美術館」で魅力発信～

附属小 3年 3組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	人々の感性を豊かにする OPAM の取組と美術作品の面白さ
単元名	自然のもので絵をかいて、お客さんに味わってもらおう～「3の3しぜん美術館」で魅力発信～
単元の目標	大分の人々を楽しませる OPAM の取組や作品、働く人と関わる活動を通して、美術作品や作品作りの面白さに気づき、作品や美術館のよさをもっと知ってもらうために自分にできることを考え、魅力を発信できるようにする。

年間計画	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) OPAM 探検に行き、どんな所か調べよう				(小単元2のめあて) OPAM の作品のように、自然のもので色を作って絵をかこう				(小単元3のめあて) 自分たちの美術館から魅力を発信しよう			
	学習活動	育成を目指す資質・能力		学習活動	育成を目指す資質・能力		学習活動	育成を目指す資質・能力				
	<p>【導入】 ・自分たちのお面が飾られた OPAM に行き、OPAM に飾られている物や作品に興味を持たせる。</p> <p>【課題の設定】 ・OPAM について見たことや知っていること、調べてみたいことを話し合い、OPAM はどんなところか調べる課題を設定する。</p> <p>【情報収集】 ・OPAM で調べたいことを考え、予想し、OPAM 探検に行く。 ◆実際に OPAM に行って、知りたいことを調べる。</p> <p>【整理・分析】 ・OPAM に行ってきたことや知りたいことを整理する。 ◆作品の種類、建物、働く人について分かったことを整理する。 ◆知りたいことを作品や展示、建物、こだわりや働く人についてなど分類する。</p> <p>【まとめ・表現】 ・OPAM について分かったことや知りたいことをまとめる。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆OPAM の作品は面白そう ◆OPAM に石や石の粉があった</p>	<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>OPAM 探検をして、必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類などして具体的な内容を決定している。(B-③)</p> <p>目的に応じてノートにまとめている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】 ・自然のもので色を作れるのか、課題を設定する。</p> <p>【情報収集】 ・自然のもので色がどうやったら作れるか調べる。 ・自然のもので作った色で絵をかけるか試す。 ◆インターネットや本を使って、調べる。 ◆校長先生にインタビューして、話を聞く。</p> <p>【整理・分析】 ・自然のもので色を作って絵をかくために、実際に試した結果を整理・分析する。 ◆よりよい材料の共通点 ◆材料に合った方法</p> <p>【まとめ・表現】 ・自然のもので作った色で絵をかく。 ・自然のもので色をつくるのに適している材料や方法をまとめる。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆自然のもので、絵をかくことができる。 ◆土や砂をすりつぶして、細かくし、ろ過したものに液体のりを混ぜると絵の具をつくることができる。 ◆土や石の絵の具はきらきら光って見える</p>	<p>小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>インターネットで調べたり、校長先生の話を聞いたりして、必要な情報を収集している。(B-②、C-①)</p> <p>集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして、自分なりの考えでよりよい材料は何か、材料に合った方法は何かを決める。(B-③)</p> <p>自然のもので色を作る方法について、材料に応じてノートにまとめている。(A-①、B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】 ・お客さんを楽しんだり味わったりしてもらえる美術館を作るには、どんな展示があるとよいか、課題を設定する。</p> <p>【情報収集】 ・美術館にはどんな展示があるとよいか、情報を収集する。 ◆今まで見学した OPAM の記録を活用する。 ◆社会見学で大分市美術館へ行って、展示物について調べる。</p> <p>【整理・分析】 ・自分達の考えた展示物と大分市美術館の展示物を整理する。 ◆2つの共通点を使って、絶対に必要な展示物を整理する。</p> <p>【まとめ・表現】 ・自分たちの作品等を飾った美術館を作り、家族や附属小の人に自然のもので絵を作る方法を知ってもらったり楽しんでもらったりする。</p> <p>【振り返り】 ◆自然のもので絵をかく体験コーナーで、お客さんが楽しんでくれたよかった。 ◆自分の作品を家族やお客さんにほめてもらってうれしかった。 ◆自然のもので絵をかく楽しさが伝わって嬉しかった。</p>	<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>大分市美術館に見学へ行き、必要な情報を収集している。(B-②、C-②)</p> <p>集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして、美術館の展示物を決めている。(B-③)</p> <p>相手や目的に応じて作品に自分の思いを表現している。(A-②、B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③)</p>						

期待される概念的知識（多様性）：身近にある OPAM が、様々な芸術作品の面白さを伝えたり、見に来た多くの人たちを楽しませたりしている役割があることを理解している。

大分の人々を楽しませるOPAMの取組や作品、働く人と関わる活動を通して、美術作品や作品作りの面白さに気づき、作品や美術館のよさをもっと知ってもらうために自分にできることを考え、魅力を発信できるようにする。

単元名	単元の評価規準		
-----	---------	--	--

3-3

自然のものでも絵をかくて、お客さんに味わってもらおう
 333美術館で魅力発信

A 知識・技能

- ①知識
美術館や美術作品の価値は、画一的なものではなく、見る人の感性やつくる人の思いによって多様であることを理解している。
(多様性)
- ②技能
自然のもので絵具作りのために、必要な事柄を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。
- ③探究的な学習のよさ
ものづくり(自然のものでの作品作り)の魅力や自分たちの生活との関わりについての理解は、ものづくりに携わる人々の思いと自分たちの体験を関連付けて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
自然のもので絵を描くことに関心を持ち、石や土、植物から絵の具を作るにはどうすればよいかを考え、様々な材料で試してみる等、課題を設定し、解決方法を考えている。
- ②情報の収集
自然のもので絵の具を作りに必要な情報を、示された手段をもとに選択し、情報を収集している。
- ③整理・分析
美術館の役割を考え、美術館の展示を作るために、示された手法をもとに比較したり分類したり関連付けたりするなどして捉え、多様な情報の中にある特徴を見つけている。
- ④まとめ・表現
美術館や作品の面白さ、作品作りについて、相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、表現している。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、生活や次の課題につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
自分たちで見つけた課題の解決に向けて、身近な人と協働して探究活動にすすんで取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
OPAMの役割や作品作りに関心を持ち、自分らしさを発揮して作品と向き合い、自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。
- ③社会参画・将来展望
OPAMの役割や作品の面白さに気づき、地域の一員として、OPAMのように作品の面白さを伝えようと考え、行動している。

4年1組

宇宙一天晴な34人の
別府竹細工アンバサダー！
～6000人以上の人に
別府竹細工の魅力を伝えよう！～

令和4年度 附属小4年1組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）											
単元名	宇宙一晴天な34人の別府竹細工アンパサダー！～6000人以上の人に別府竹細工の魅力を伝えよう！～											
単元の目標	地域特有の「伝統工芸」の継承に力を注ぐ人々や伝統工芸に携わる人と関わる活動を通して、自分が住む地域で生まれ受け継がれてきた伝統文化の良さに気づき、文化や技術の継承を願って自分たちにできることを考え、協働して伝統工芸の良さを伝えようと行動できるようにする。											
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	1年間の学習でつけた力を考えよう（2時間）		（小単元1のめあて） 「別府竹細工」について詳しくなるよう（10時間）		（小単元2のめあて） 「別府竹細工」の知名度を調べよう（10時間）		（小単元3のめあて） 「別府竹細工」を広める方法を考えよう（8時間）		（小単元4のめあて） 「別府竹細工」の魅力をプレゼンする動画をつくろう（30時間）		（小単元5のめあて） プレゼン動画をたくさんの人に観てもらうための作戦を立て実行しよう（10時間）	
	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力
年間計画	<p>【課題の設定】 今年の総合では、どんなことに挑戦していきたくなのか？</p> <p>【情報収集】 ・3年生の総合的な学習の時間でつけた力と課題を振り返る。</p> <p>【整理・分析】 ・3年生の総合でつけた力について分類・整理する。 ◆高めた力や課題は何か。</p> <p>【まとめ・表現】 ・4年生の総合的な学習の時間でつけた力を明確にし、それをつけるための活動を考えている。 ◆誰かの力になることができる活動をしていきたいな</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆昨年の総合でつけた力や課題をもとに、力をさらに高めていくために何を学んでいけばよいか考えることができた。 ◆伝統工芸に関わる人々のために伝統工芸を未来につないでいくことを考えたい。</p>	<p>自分の関心から課題を設定している。（B-①）</p> <p>過去の経験から必要な情報を収集している。（B-②）</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決定している。（B-③）</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめている。（B-④）</p>	<p>【課題の設定】 ・「別府竹細工」について調べるといふ課題を設定する。</p> <p>【情報の収集】 ・本やインターネットなどで「大分の伝統工芸」について調べる。 ・調べても分からないことが多くという困りから、別府竹細工伝統産業会館で見学・体験・インタビューする。</p> <p>【整理・分析】 ・収集した情報や体験活動を通して分かったことを視点を決めて分類・整理する。 ◆大きく分けると6つの魅力に分けられるな。</p> <p>【まとめ・表現】 ・整理・分析した結果をもとに別府竹細工の魅力をノートにまとめ伝え合う。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆「別府竹細工」にはたくさんの魅力がある。でも、大分県民のどれだけの人が知っているんだろう？</p>	<p>自分の関心から課題を設定している。（B-①）</p> <p>見学・体験・インタビューに必要な情報を収集している。（B-②、A-①）</p> <p>自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②）</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容や活動を決定している。（B-③）</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめている。（B-④）</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。（B-⑤）</p>	<p>【課題の設定】 ・「別府竹細工」の知名度を調べるといふ課題を設定する。 ◆魅力ある「別府竹細工」はどれだけの人に知られているのだろうか？</p> <p>【情報の収集】 ・大分駅でインタビュー活動をする。</p> <p>【整理・分析】 ・インタビューした結果を、質問別、年齢別に整理し表にまとめ、知名度の傾向を考える。 ◆算数で学習した表とグラフの学びが使えるね。</p> <p>【まとめ・表現】 ・知名度の傾向から、「別府竹細工」を主に伝えていきたいターゲットを決める。 ◆10～50代の大分県民の方をターゲットに魅力を伝えていこう！</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆若い人たちが「別府竹細工」のことを知らない。魅力を伝えて行くにはどうしたらいいのだろうか？</p>	<p>小単元1の振り返りや自分の関心から課題を設定している。（B-①）</p> <p>自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②）</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容や活動を決定している。（B-③）</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめている。（B-④）</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。（B-⑤）</p>	<p>【課題の設定】 ・「別府竹細工」を広める方法について考えるという課題を設定する。 ◆若い人に魅力を伝えて行くにはどのような方法がいいのだろうか？</p> <p>【情報の収集】 ・「別府竹細工」の魅力を広めるための方法について、案を集める。</p> <p>【整理・分析】 ・集めた案を出し合い整理し、視点にあうものを吟味しながら「別府竹細工」の魅力を伝える方法を定める。</p> <p>【まとめ・表現】 ・「別府竹細工」の魅力について伝える相手、伝える方法をもとに大テーマを決める。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆「別府竹細工」の魅力をプレゼン動画で10～50代の大分県民に伝えていきたいな。そのためには、魅力が最大限に伝わるプレゼンテーションをつくりたいな。</p>	<p>小単元2の振り返りや自分の関心から課題を設定している。（B-①）</p> <p>自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②、A-①）</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして魅力を伝える具体的な方法を決定している。（B-③）</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめる。（B-④、A-②）</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。（B-⑤）</p>	<p>【課題の設定】 ・「別府竹細工」の魅力をプレゼンする動画を設定する。</p> <p>【情報の収集】 ・これまで学んだ「別府竹細工」の魅力をすべて出し合う。 ・プレゼンのコツを本や動画から集める。 ・友だちやお家の人からもらったアドバイスを元にプレゼンを修正する。</p> <p>【整理・分析】 ・これまで学んだ別府竹細工の魅力を整理し、目的に合わせて伝える優先順位を決めていく。 ・もらったアドバイスを整理し、目的に合わせて取捨選択し、プレゼンを改善する。</p> <p>【まとめ・表現】 ・「別府竹細工」の魅力を伝えるプレゼン動画をYoutubeにアップする。</p> <p>【振り返り】 ◆動画をどのように広めていこうかな？</p>	<p>単元3の振り返りや自分の関心から課題を設定している。（B-①）</p> <p>自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②、A-①、C-③）</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決めている。（B-③、C-②）</p> <p>目的や意図に応じて、プレゼンをしている。（B-④、A-②）</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。（B-⑤）</p>	<p>【課題の設定】 ・プレゼン動画を広める方法を考えるという課題を設定する。</p> <p>【情報の収集】 ・プレゼン動画を広げる方法の案を出し合う。 自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②、A-①、C-③）</p> <p>【整理・分析】 ・出した案を整理し、実現可能なものを視点に合わせて考え、計画を立てる。 ◆大分駅でQRコード入りポスターを配布したり、大分駅にポスターを貼ったりさせてもらおう！ ◆学年に合わせてポスターを変えて、全校に配布しよう！</p> <p>【まとめ・表現】 ・決まった案を実行する。</p> <p>【振り返り】 ◆別府竹細工の魅力や職人さんの思いを継いでいくことはとても大切なこと。大分県の伝統をこれからも大切に引き継いでいきたい。</p> <p>自分なりの目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集している。（B-②、A-①、C-③）</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分の生活につながるようとしている。（B-⑤、A-③、C-③）</p>	

期待される概念的な知識（独自性）：地域に古くから伝わる伝統文化の素晴らしさや、その技術を継承し活動している人々の思いや願いを知ると共に、協働して伝統文化の良さを見直したり発信したりすることが伝統文化の素晴らしさを後世に伝えていくためには必要であることを理解している。

地域特有の「伝統工芸」の継承に力を注ぐ人々や伝統工芸に携わる人と関わる活動を通して、自分が住む地域で生まれ受け継がれてきた伝統文化の良さに気づき、文化や技術の継承を願って自分たちにできることを考え、協働して伝統工芸の良さを伝えようと行動できるようにする。

単元名

単元の評価規準

4-1

}

6

0

0

0

人

以

上

の

3

4

人

に

別

府

竹

細

工

の

魅

力

を

伝

え

よ

う

！

！

！

！

！

！

！

！

！

！

！

！

！

A 知識・技能

①知識

地域に古くから伝わる伝統文化の素晴らしさや、その技術を継承し活動している人々の思いや願いを知ると共に、協働して伝統文化の良さを見直したり発信したりすることが伝統文化の素晴らしさを後世に伝えていくためには必要であることを理解している。
(独自性)

②技能

地域に古くから伝わる伝統工芸の素晴らしさを伝えるために、必要な事柄を選んだり獲得した知識を比較、分類関連付けて活用したりして、相手や目的に応じた表現方法を工夫している。

③探究的な学習のよさ

地域に古くから伝わる伝統工芸についての理解や魅力の広がりや、文化を継承していく人々の思いと自分たちの体験を関連付けて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

①課題の設定

伝統工芸の継承・発展に向けて努力している人々の思いや願いをふまえ、自分たちの関わり方についての課題を設定するとともに、解決方法や手順を考え見通しを持って探究している。

②情報の収集

大分の伝統工芸の歴史、魅力や知名度などを理解するために必要な情報を、自分なりの目的に応じた方法・手段で収集している。

③整理・分析

大分の伝統工芸の魅力伝える活動を進めるために、事象を相手や目的、意図に応じて手段を選択し、比較したり分類したり関連付けたりするなどして考え、多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて、具体的な内容や活動を決めている。

④まとめ・表現

大分の伝統工芸の魅力についての自分の考えを相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。

⑤振り返り・知の更新

単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

①主体性・協働性

課題解決に向けて、他者と協働して探究活動にすすんで取り組んでいる。

②自己理解・他者理解

伝統工芸に関心を持ち、自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、異なる意見や他者の考えを受け入れながら取り組もうとしている。

③社会参画・将来展望

地域の伝統工芸を体験したり発信したりすることで、伝統工芸の継承に役立つことができると気付くとともに、地域の一員として、地域のために継続してできることを考え行動している。

【単元の目標】

地域特有の「伝統工芸」の継承に力を注ぐ人々や伝統工芸に携わる人と関わる活動を通して、自分が住む地域で生まれ受け継がれてきた伝統文化の良さに気づき、文化や技術の継承を願って自分たちにできることを考え、協働して伝統工芸の良さを伝えようと行動しようとする。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化

地域に古くから伝わる伝統文化の素晴らしさや、その技術を継承し活動している人々の思いや願いを知ると共に、協働して伝統文化の良さを見直したり発信したりすることが伝統文化の素晴らしさを後世に伝えていくためには必要であることを理解している。(独自性)

②技能

地域に古くから伝わる伝統工芸の素晴らしさを伝えるために、必要な事柄を選んだり獲得した知識を比較、分類関連付けて活用したりして、相手や目的に応じた表現方法を工夫している。

③探究的な学習のよさ

地域に古くから伝わる伝統工芸についての理解や魅力の広がり、文化を継承していく人々の思いと自分たちの体験を関連付けて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

- ・職人さんの「広めて欲しい」「みんなに知って欲しい」という気持ちを知ったので、これからも別府竹細工に詳しくなって県内や県外の人に教えられようになりたいと思いました。
- ・学んだことは、景行天皇が始まりで、いろいろな職人さんが頑張ってきて、いろいろなピンチを乗り越えてきたことです。このことから、ピンチは乗り越えられないし、あきらめたたらダメだということが分かりました。
- ・5年生でバラバラになっても別府竹細工を広めることは続けます！
- ・成長したことは3つあります。一つ目は「結束バンド」です。全員をしっかりとまとめてうまく話を進めたりすることができたと思います。2つめは「OITA」です。「PREP法」の改造版ですが、「O」でまず「おお～」というような結論を言い、「I」でその意味を紹介し、「T」で「例えば」などの具体例、「A」で「ああ～！そういうことか！」となるような説明を心掛けるということです。3つめは、情報活用能力です。プレゼンに行くまでに材料集めし、一つ一つの情報をまとめ、活用し、プレゼンに向かうということです。

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①別府竹細工伝統産業会館における見学・体験・インタビュー活動

別府竹細工についての情報収集のために、実際に別府竹細工伝統産業会館に行き、職人さんのガイドを聞きながら作品を見学したり、職人さんに教えてもらいながら実際に竹鈴作りを体験したり、職人さんにインタビューしたりした。その中で、実物の作品のこだわりに触れたり、本物の知識を得たり、竹籤を実際に触ったり、職人さんの思いを知ったりすることができた。

②表現方法とターゲットを明確にし、状況に応じて思考スキルを示す

話し合いの中で、別府竹細工の魅力伝える相手(ターゲット)を10～50代の大分県民とし、方法をプレゼンテーション動画と設定することで、探究の目的意識を明確化した。情報を整理・分析する場面では、目的に合わせて「比較する」「分類する(グルーピング・ラベリング)」「順位づける」「取捨選択する」などの思考スキルを使えるように「大事な考え方は何か」ということを明示したり、共に考えたりした。

③教師はファシリテーションに徹する

話し合いの場面では思考を焦点化したり深めたりする場面でのみ教師が出るなど、教師の出を精選することで、子どもの「自分たちで解決したい」という主体性を引き出し、協働して探究するよさに気付かせた。



【言えそうなこと】

A-①

本物の作品、本物の職人の方の思いなど、「本物」に触れることが「知りたい」「伝えていきたい」という探究の意欲を高めるとともに、伝統文化の素晴らしさの気付きやそれを伝えていくことの重要性への気付きにつながる。

A-②

表現方法とターゲットを明確にすることで、探究における目的や思考・判断の視点が明確になり、目的意識が高まるとともに、目的に応じた思考方法や表現方法を選択できるようになる。子どもが気付かない思考スキルは教師が明示したり、共に考えることで子どもの選択肢を増やすことができる。

A-③

教師が出番を精選し、ファシリテーション役に徹することで、子どもは自分事として探究していく主体性を高めるとともに、協働して探究するよさに気付くことができる。

伝統文化を材とした単元においては、子どもたちが本物の作品や職人の思いに触れ、目的意識を明確に持ち、自分たちで探究していく過程を経ることが大切である。

4年2組

もったいないをなくせ！
～捨てる物UPサイクル大作戦～

令和4年度 附属小4年2組 総合的な学習の時間 年間学習計画 (70時間)

探究課題	ゴミの再利用を視点としたもの作りの面白さ工夫											
単元名	もったいないをなくせ！ ～捨てる物UPサイクル大作戦～											
単元の目標	探究的な見方・考え方を働かせ、身近なゴミとそこに起きている環境問題に関わる人々の声を聞き、捨てられる物の視点を変え、生活に役立つ物に生まれ変わらせていく活動を通して、身近な物を大切にしていこうという意識を高めることができるようにする。											
年間計画	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	1年間の学習のテーマを決めよう (3時間)			(小単元1のめあて) 視点を改めて、捨てる物を生まれ変わらせよう大作戦！			(小単元2のめあて) 段ボール粘土で作品作り！ UP サイクル大作戦			(小単元3のめあて) 段ボール粘土を利用して、みんなを助ます物を作ろう大作戦		
	学習活動		育成を目指す 資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力
	<p>【課題の設定】 今年の総合では、どんな力を付けたいのか？どんなことに挑戦したいのか？</p> <p>【情報収集】 ・これまでに総合でどんな体験をして、どんな力を高めてきたのか？</p> <p>【整理・分析】 ・これまでの総合で付けた力について視点を決めて分類する。 ◆高めた力は何か？ ◆4年ではどんな力を高めたいか？</p> <p>【まとめ・表現】 ・今年度総合の学習の時間で高めたい力を明確にし、そこに迫るための活動を考える。 ◆大分の自然に目を向けたい ◆楽しみながら活動を進めたい ◆釣りに関することをしたい</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆これまでの学習を通して、「物を大切にすること」「人を大切にすること」の大事さを学んできた。今回は海をテーマに地域の自然の豊かさや魅力を感じながら、それを大切にしたい思いを高めていきたい。</p>		<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>これまでの体験から必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決定している。(B-③)</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめ、テーマを決めている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】 ・大分のゴミの状況を知り、捨てられている物の多さや内容物から自分たちができる事はないか課題意識を持つ。 ◆まだ使えないもったいない、 ◆ゴミの有効利用はできないかな？</p> <p>【情報の収集】 ・捨てられる物をつかってどんな再利用ができるのか、インターネットや家族への聞き込みを基に情報を集める。</p> <p>【整理・分析】 ・収集した情報を基に自分でも作れそうか？材料は集まりそうか？を座標軸を使って分析する。</p> <p>【まとめ・表現】 ・分析を基に作品を作る。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆捨てられる物を使って暮らしに役立つ物を作ることができた。他にもリサイクル作品を作ってみよう。 ◆段ボールで粘土ができるなんて知らなかった。やってみよう。</p>		<p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p> <p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p> <p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p> <p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p>	<p>【課題の設定】 ・段ボールを使ったりリサイクル作品に数々に触れ、自分たちもその作品をしたいという思いを移らせるなかで、課題意識を持つ。 ◆自分たちにも簡単にできそうな作品はなんだろう。</p> <p>【情報の収集】 ・粘土の質感や硬化後の特性を肌で感じながらできそうな作品を考えさせる。</p> <p>【整理・分析】 ・クラスの情報を基に、自分だったらどんな作品に挑戦するか分析する。 ・芯材になりそうな物を分析し材料を集める。</p> <p>【まとめ・表現】 ・段ボールを溶かして粘土を作成する。 ・粘土を芯材に張りつけて1人1作品完成させる。</p> <p>【振り返り・知の更新】 ◆段ボールがこんなに形を変えて生まれ変わるとは思わなかった。 ◆今回は1人で1作品作ったが、みんなで協力して大きな作品に挑戦してみよう。</p>	<p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p> <p>ゴミの再活用方法や、再利用作品を理解するのに必要な情報を、自分なりの手段を選択し収集している。(B-②)</p> <p>ゴミの再活用作品を作り、様々な活用方への理解を深めるために、事象を比較したり分類したり関連づけたりするなどして多様な特徴を捉えながら解決に向けて考え、具体的な内容や活動を決定している。(B-③)</p> <p>ゴミの活用方について自分の考えを相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。(B-④)</p> <p>単元で学習したことのふり返り、次の学習や日常生活に繋げて考え、生かそうとしている。</p>	<p>【課題の設定】 ・全単元のふり返りをコロナの影響で大分に観光客が減っている現状から自分たちができることはないか課題意識を持つ。 ◆大分を盛り上げる作品を作って駅に飾ってもらおう。</p> <p>【情報の収集】 ・大分を代表する物は何かのアンケートを、全校、教員、家族を対象に実施する。</p> <p>【整理・分析】 ・収集した情報を基に、ねらいは達成できるか？重を作らず自分たちに作ることができそうか？を座標軸に分析を行う</p> <p>【まとめ・表現】 ・分析を基に作品を作る。</p> <p>【振り返り】 ◆みんなで協力して一つの作品を作ることができた。難しかったけれど完成してよかった。 ◆駅長さんに喜んでもらえて良かった。たくさんの人見てもらえると嬉しい。</p>	<p>他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見直しを持っている。(B-①)</p> <p>自分と異なる意見や考えを生かしながら身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。(B-②)</p> <p>ゴミの再利用方法を見つけるために、必要な事柄を調べたり、目的に応じて表現方法を工夫したりしている。(A-②)</p> <p>ゴミと自分たちの生活や環境との関わりについて、物を捨てずに有効利用する方法を模索したり、ゴミを出さないように生活を改めたりするなど、身近な物を大切にしようとしている。(B-③)</p>		

期待される概念的知識(協働性)：ゴミの問題の現状を知るとともに、自分たちにもできることを考えたり、行動にうつしたりする中で、身近な環境問題の改善につながることを理解する。

単元目標

探究的な見方・考え方を働かせ、身近なゴミとそこに起きている環境問題に関わる人々の声を聞き、捨てられる物の視点を変え、生活に役立つ物に生まれ変わらせていく活動を通して、身近な物を大切にしていこうという意識を高めることができるようにする。

単元名	単元の評価規準		
<p>4-2</p> <p>もったいないをなくせ！ 捨てる物アップサイクル大作戦</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
	<p>①知識 捨てられる素材(ゴミ)のもつ特性や良さを多面的に捉え、素材の有効性を理解するとともに、ゴミが自分たちの生活や環境と関わり合っていることを理解している。(協働性)</p> <p>②技能 ゴミの再利用方法を見つけるために、必要な事柄を調べたり、目的に応じて表現方法を工夫したりしている。</p> <p>③探究的な学習の良さ 環境のために物を大切にしようとするこ とへの気付きは、探究的に学習してきた ことの結果であると気付いている。</p>	<p>①課題の設定 他教科の学習から、ゴミと自分たちの関わりについて課題を設定するとともに、解決方法を考え解決に受けて見通しを持っている。</p> <p>②情報の収集 ゴミの再活用方法や、再利用作品を理解するのに必要な情報を、自分なりの手段を選択し収集している。</p> <p>③整理・分析 ゴミの再活用作品を作り、様々な活用方への理解を深めるために、事象を比較したり分類したり関連づけたりするなどして多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて考え、具体的な内容や活動を決めている。</p> <p>④まとめ・表現 ゴミの活用方について自分の考えを相手や目的の応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>⑤単元で学習したことの振り返り 次の学習や日常生活に繋げて考え、生かそうとしている。</p>	<p>①自己理解・他者理解 「ゴミの再利用」に関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら、課題解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p>②主体性・協働性 自分と異なる意見や考えを生かしながら身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。</p> <p>③将来展望・社会参画 ゴミと自分たちの生活や環境との関わりに気付き、物を捨てずに有効利用する方法を模索したり、ゴミを出さないように生活を改めたりするなど、身近な物を大切にしようとしている。</p>

【単元の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、身近なゴミとそこに起きている環境問題に関わる人々の声を聞き、捨てられる物の視点を変え、生活に役立つ物に生まれ変わらせていく活動を通して、身近な物を大切にしていこうという意識を高めることができるようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化
捨てられる素材（ゴミ）のもつ特性や良さを多面的に捉え、素材の有効性を理解するとともに、ゴミが自分たちの生活や環境と関わり合っていることを理解している。（協働性）

②技能
ゴミの再利用方法を見つけるために、必要な事柄を調べたり、目的に応じて表現方法を工夫したりしている。

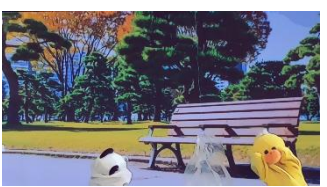
③探究的な学習のよさ
環境のために物を大切にしようとする事への気付きは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

- ・ **ゴミを減らすことをテーマに活動してきて、これまでの学習でゴミの見方が変わりました。ゴミは資源です。いつか海がきれいになるといいなあと思います。将来魚たちも安心して暮らせるようにしたいです。**
- ・ **最初は「これはゴミだな」とか「いらぬや」みたいな考え方にすぐなっていたけど、この1年間でゴミはゴミじゃないんだ。資源なんだ！という精神が新しくできました。**
- ・ **PTAや全校に伝えるために分かりやすいように文を変えたりして、要約する力や考える力が高まりました。他のチームからのアドバイスを受けて、そこを直そうと改善する力も高まったと思います。**
- ・ **集中力が高まりました。針金でウロコを付けるときは見える針金の部分を段ボール粘土で見えないように付けるなど、集中して今の作品を作ることができました。**
- ・ **5月から3月までずっとみんなで協力して、いろいろなことを調べたり伝えたりできて、全部出し合ったら50種類くらいの力がついて、とても楽しい1年間でした。**

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①昨年度の他学年の総合の成果物の活用
昨年度の6年生が行った海のゴミをテーマにした呼びかけの動画を導入として扱った。自分たちが何気ない行動が海を汚しているという動画の情報から、確かめてみたいという思いや本当なら何か行いたいという願いが生まれた。その結果より深いレベルで活動のサイクルを回すことができた。



②目的意識に立ち返った表現の追究とAB教材の活用
国語科の学習と同じく活動のサイクルを全員で同じテーマのA教材、自分のオリジナル性を追究したB教材の2パターンに分けて行った。その結果、活動の見通しを持ち、より自分たちの願いに沿った作品づくりが可能となった。また、全員で話し合う場面では活動の目的に立ち返り、何のために表現するのかを明確にしてから取り組んだことで、納得した作品に近づけることができた。



③発表を通じた活動の振り返りの場の設定
2月の学習発表会で保護者に海ゴミを減らす思いを伝えるためにグループごとにこれまでの活動を順序だてて発表した。発表に向けて学んだことをふり返ることで、改めて活動の願いや思いに立ち返り、自分たちが探究した成果が今の姿であることを実感するに至った。



【言えそうなこと】

- A-①**
新年度のテーマの設定に過去の学習の成果物を活用することは有効であると言える。ただ、児童の願いや思いと重なるか教師が慎重に見極める必要がある。
- A-②**
技法が必要となる活動では、習得に個人差があることから、主の活動を行う前に練習として共通の活動を行い各自の技能を高めておくことが大切である。また、目的意識を随時ふり返ることで、さらに表現の高まりや改善への好機となると言える。
- A-③**
2月の学習発表会の場合は、これまでの学びの確認の場であると同時に、最後の活動につながる目的意識の再確認の場として有効に機能すると言える。

海ゴミをテーマにした単元においては、過去の取組を参考にすると同時に、練習と本番のサイクルを繰り返しながら目的のある作品作りを通して試行錯誤させるような学習過程が有効である。

4年3組

すごさMAX！

4ー3ニコニコけん玉パフォーマンス2022
～四校園ツアーで伝えよう～

附属小4年3組 総合的な学習の時間 年間指導計画 (70時間)

探究課題	昔遊びの面白さや工夫と後世へのつながり (伝統遊び)											
単元名	すごさMAX! 4-3 ニコニコけん玉パフォーマンス2022 ~四校園ツアーで伝えよう!!~											
単元の目標	昔遊びのけん玉を実際にして、その技能を高めたりパフォーマンスの視点を考えて人前で見せたりする活動を通して、相手にけん玉のよさを伝えるための見せ方の特徴やポイントなどがあることを理解し、伝統的な遊びを広げ、守るために自分たちにできることを考えとともに、協働して昔遊びのけん玉のよさを伝えようと行動できる。											
	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	1年間の学習のテーマを決めよう (10時間)			(小単元1のめあて) けん玉で遊ぼうシーズン (10時間)			(小単元2のめあて) けん玉の技シーズン (25時間)			(小単元3のめあて) けん玉パフォーマンスシーズン (25時間)		
	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・能力
年間計画	<p>【導入：体験活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味付けと児童の実態把握のために、教室に昔の遊び道具を置いて、自由に遊ばせることで興味・関心を持たせておく。 <p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の総合的な学習の時間では、どんなことに挑戦したいかを考え、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年の総合的な学習の時間の情報と身につけてきた力をふり返る。 「誰に」「何を」「何のために」の視点で今年の総合的な学習の時間のテーマにつながる情報を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年の総合的な学習の時間でつけた力について視点を決めて、分類・整理する。 「誰に」「何を」「何のために」の視点のつながりを考え、今年の総合的な学習の時間のテーマをしぼる。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生の総合的な学習の時間でつけた力を明確にし、それをつけるための活動を考える。 「誰に」「何を」「何のために」の視点のつながりを考え、活動を決定する。 ◆楽しみながら楽しませることがしたい ◆全校、附属四校に向けて発信してみたい <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「よさを伝える力」をつけるためのテーマを考えることができた。これから、昔遊びについて詳しく調べたいし、やってみよう! 		<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>過去の経験から必要な情報を収集している (B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決定している。(B-③)</p> <p>自分の考えを相手や目的に応じてまとめ、つけた力と活動を決定している。(B-④)</p> <p>学習したことをふり返り、次の課題につながるものとして。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> けん玉について調べ、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を出し合ったり本やインターネットなどでけん玉について調べたりする。 ◆まずは遊んでみたい! ◆やってみて分かった! ◆あの人のやっていたところを見て気づいたことがある! ◆昨年度4年1組の5年生にけん玉についてや昨年度の総合的な学習の時間についての思いや願いをインタビューする。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を通して分かったことについて視点を決めて分類・整理する。 ◆けん玉のおもしろさは? ◆けん玉のよさは? ◆けん玉で一番やってみたい技は? <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整理・分析して決定した結果から、それぞれけん玉を楽しむ。 ◆実際にけん玉で遊んだことを見せ合ったり感想を聞き合ったりする。 ◆再度、収集した情報を整理・分析した結果から、たしかめのけん玉遊びをする。 ◆けん玉はやっぱ楽しい! ◆〇〇さんの技がすごかったな! →けん玉の技 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「よさを伝える力」をつけるためには、けん玉でも「すごい!」「技がかっこいい!」など魅力が詰まったものがいけない!。それから、けん玉をもっと上手になりたいな。どうすれば、もっとうまくなれるかな? 		<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>過去の経験と本やインターネットなどから必要な情報を収集している (B-②、A-①)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決定している。(B-③)</p> <p>自分の考えを相手や目的に応じてまとめ、昔遊びのよさや面白さを伝えている。(B-④)</p> <p>学習したことをふり返り、次の課題につながるものとして。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「けん玉」が上手くなるために必要なことを考え、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットなどで、けん玉の技について調べる。 ◆昨年度4年1組の5年生や先生方にけん玉のコツや技を教えてもらいたいという願いから、交流の機会を作る。 ★GT2021年度4年1組児童 ◆けん玉の技をプロから学びたいという願いから、GTを招き、習う機会を作る。 ★GT 佐藤十九生さん (日本けん玉協会) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたい事や調べた結果、5年生と先生方とプロなどから聞いた情報について整理・分析する。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた結果やプロや先輩から聞いたコツや技についてまとめ、実際に練習する。 ◆調べたり聞いたりした技ができた! ◆〇〇さんが上手だから、みんなで教え合ったり見合ったりしてみたい! <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆難しい技にチャレンジしてできた! この技はすごい技だから、みんなに見せたい! これなら、よさを伝えられるはず! 		<p>小単元1のふり返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた示された手段をもとに選択して必要な情報を収集している (B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決定している。(B-③、A-②)</p> <p>自分の考えを相手や目的に応じてまとめ、練習内容やスケジュールなどを決め、練習している。(B-④)</p> <p>学習したことをふり返り、次の課題につながるものとして。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> けん玉のよさを伝えるためのパフォーマンスの視点を考え、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスの視点に必要なことを調べる。 ◆先生や同学年、保護者、昨年度4年1組の5年生に対してパフォーマンスして感想を聞き取り、自分たちのパフォーマンスの問題点や改善点を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたり聞いたりして分かった自分たちのパフォーマンスの改善点やよさを整理・分析する。 ◆公演に向け、練習と本番までのスケジュールを決定する。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆分かったことをもとに練習して、パフォーマンスのレベルを高める。 ◆全校児童にパフォーマンスを公演する。 ◆附属4校園でパフォーマンス興行をする (★昨年度4年1組未達成目標)。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆公演した時の見ている人の表情がよかった。一緒にけん玉をした時もまたやりたいたと話していた。だから、「魅力を伝える力」がついたと思う! ◆技をもっと極めることで、相手に魅力を伝えることがもっとできると思うから、まだまだ上達していきたい! ◆全体でのパフォーマンスで相手に魅力を伝えるためには演出や技のレベルアップが必要だったし、相手からどう見えるのかも考える必要があると分かった! ◆何より、けん玉はやっぱ楽しいということが分かった。けん玉と同じ、昔遊びの楽しさはこれからも伝えていきたい。 		<p>小単元2のふり返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた示された手段をもとに選択して必要な情報を収集している (B-②、A-①、C-①)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な自分たちのパフォーマンスの改善点やよさを決定している。(B-③、A-②、C-②)</p> <p>自分の考えを相手や目的に応じてまとめ、公演している。(B-④)</p> <p>学習したことをふり返り、今後の自分の生活につながるものとして。(B-⑤、A-③、C-③)</p>

期待される概念的な知識 (多様性) : 現代まで残り続ける昔遊びの面白さや楽しさについて知るとともに、協働して昔遊びの技能を高めたりパフォーマンスの視点の大事さを実感したりすることで、多種多様な相手に合わせてよさを伝えるための特徴があることを理解している。

昔遊びのけん玉を実際にして、その技能を高めたりパフォーマンスの視点を考えて人前で見せたりする活動を通して、相手にけん玉のよさを伝えるための見せ方の特徴やポイントなどがあることを理解し、伝統的な遊びを広げ、守るために自分たちにできることを考えるとともに、協働して昔遊びのけん玉のよさを伝えようと行動できる。

単元名	単元の評価規準		
<p>4-3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">すしゅMAX！4・3ニヒキけん玉パフォーマンス2022 〜四校園ツアード伝えよう〜</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
	<p>①知識 現代まで残り続ける昔遊びの面白さや楽しさについて知るとともに、協働して昔遊びの技能を高めたりパフォーマンスの視点の大事さを実感したりすることで、多種多様な相手に合わせて魅力を伝えるための特徴があることを理解している。（多様性）</p> <p>②技能 よさを伝えるためには、場面や状況に合わせた伝え方を考えたり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的に応じた表現方法を工夫している。</p> <p>③探究的な学習のよさ 昔遊びのよさを伝えるための見せ方の特徴やポイントなどがあることへの理解とその魅力の広がり、伝統遊びの面白さや工夫と後世へ残されてきた背景と関連付けて探求的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①課題の設定 伝統的に後世に残されてきた昔遊びのよさや継承してきた人々の思いや願いをふまえ、自分たちとの関わりについて課題設定するとともに、解決方法を考え見通しを持っている。</p> <p>②情報の収集 昔遊びの歴史や面白さ、よさなどを理解するため必要な情報を、目的に応じて示された手段をもとに選択し、収集している。</p> <p>③整理・分析 昔遊びのよさを伝える活動について、事実を示された手法をもとに比較したり分類したり関連付けたりするなどして多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて考え、具体的な内容や活動を決めている。</p> <p>④まとめ・表現 昔遊びのよさについての自分の考えを相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>⑤振り返り・知の更新 単元での学習をふり返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。</p>	<p>①主体性・協働性 自分たちで見つけた課題の解決に向けて、身近な人と協働して探求活動に取り組んでいる。</p> <p>②自己理解・他者理解 自分のよさやできることに気づき、異なる意見や考えを受け入れながら取り組もうとしている。</p> <p>③将来展望・社会参画 昔遊びの魅力やパフォーマンスの視点を重視した発信活動をすることで、昔遊びの面白さや後世へのつながりに気づき、地域のために継続してできることを考え行動している。</p>

【単元の目標】

昔遊びのけん玉を実際にして、その技能を高めたりパフォーマンスの視点を考えて人前で見せたりする活動を通して、相手にけん玉のよさを伝えるための見せ方の特徴やポイントなどがあることを理解し、伝統的な遊びを広げ、守るために自分たちができることを考えるとともに、協働して昔遊びのけん玉のよさを伝えようと行動できる。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化

現代まで残り続ける昔遊びの面白さや楽しさについて知るとともに、協働して昔遊びの技能を高めたりパフォーマンスの視点の大事さを実感したりすることで、多種多様な相手に合わせて魅力を伝えるための特徴があることを理解している。(多様性)

②技能

よさを伝えるためには、場面や状況に合わせた伝え方を考えたり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的に応じた表現方法を工夫している。

③探究的な学習のよさ

昔遊びのよさを伝えるための見せ方の特徴やポイントなどがあることへの理解とその魅力の広がり、伝統遊びの面白さや工夫と後世へ残されてきた背景と関連付けて探求的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

けん玉のよさは、だれでも練習すればできる
ところなんです。私は、はじめ大皿に乗せるの
できなかつたんだけど、今ではつばめ返しや
ふりけんができるようになりました。上手に
なるともっとむずかしい技に挑戦した
くなって練習を続けました。そして、四校
園ツアーでパフォーマンスをする成功させる
までにけん玉のレベルも成長しました。佐藤
十九生さんも話していたけど、けん玉はやっ
ぱり上手くなって人に見てもらえた時が一番
うれしいし、いいなあと思いました。特別支
援学校ではアンコールももらえてうれし
かったです。パフォーマンスでは三原色に技
を決める時に大変だったけど、簡単でかっ
こいい技やかっこつけて大きく動いたり
して工夫できました。ふれあいでも、相
手のことをよく見て技をしょうかいたり
教えたりしました。パフォーマンスの後
も、みんなでいつも課題や改善など出し
合うことで、ツアーするごとにみんな
でよりよいパフォーマンスに変えてい
くこともできました。誰でもできる
というけん玉のよさ、みりよくをこれか
らも広げていきたいです。4年3組の
みんなと四校園ツアー、最高でした！
けん玉、最高！！

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①3つの視点（①プロ②集団パフォーマーとして③観客）を意識した練習と話し合いのサイクルの継続

けん玉の面白さや楽しさを十分に知った上で、けん玉の特訓やパフォーマンスを実際に行い、自分のけん玉の上達だけではなく、様々な人の視点の大事さを一人一人の気付きを出し合い話し合ったこと。また、実際のパフォーマンスの時の観客の様子を根拠に話し合いを進めたこと。



②パフォーマンスの体験・表現活動と、実感の伴った振り返りからの改善に向けた探究活動

パフォーマンスをする前に相手の特徴を情報収集した後に想像を広げることで具体的な表現方法を考えたり伝え合ったり練習したりしたこと。また、パフォーマンスをした後に相手の様子から表現方法で工夫したことを多く出し合うことで、次回のパフォーマンスに常に繋げていたこと。



③本やインターネット、プロの話などでの情報収集と、けん玉が上達している自分との結び付きへの気付き

「簡単だけれどかっこいい」「難しいけどできた時が嬉しい」「挑戦心や達成感を実感できる」「収集した情報と同じ状態に自分になっている」など、けん玉が上達していくこととパフォーマンスを行うことで、実感の伴った面白さやその魅力などのけん玉のよさへの理解を深めてきたこと。実際に人前で行うという実体験との結び付きを常に考え合ったこと。



【言えそうなこと】

A-①

まず、実際に「やってみる」ということ。やってみた結果や起きた事実や考えに基づいて練習や話し合いを継続的に回すとよい。

A-②

考えて想像したことと、実際に行って分かった事実とを毎回繋げながら振り返りを行うとよい。実感の伴った学びへと変わる。

A-③

面白さや魅力などを伝えるため、とことん楽しみ、上手になることが必要不可欠である。伝統が伝統である所以に体験を以て気付くことができる。

伝統遊びの単元においては、特に体験活動と表現活動の繰り返しのサイクルや想像と実際とを結び付ける経験の回数の充実が必要である。

5年1組

附小から発信！
海ごみアート&劇プロジェクト

附属小 5年1組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	海ごみから見える地球環境問題と、地域の自然環境を守る取組											
単元名	附小から発信！海ごみアート&劇プロジェクト											
単元の目標	地域の自然環境を保護する活動を通して、海ごみの現状や課題を解決するための活動に携わる人々について理解し、地域や身近な人の環境保全に対する意識や関わり方が広がるための方法を考えるとともに、相手意識を持って自分たちができる取組を実践しようとするようにする。											
	(4月)	(5月)	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) 海ごみが自然環境に与える影響を調べよう(8時間)		(小単元2のめあて) 海ごみを減らすために、自分たちができることを考えよう(17時間)			(小単元3のめあて) 豊かな自然環境を守るために、海ごみアートや劇作りに挑戦しよう(30時間)			(小単元4のめあて) 海ごみアートや劇を使って、自分たちの思いを、地域の人に発信しよう(15時間)			
	学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		育成を目指す資質・能力	
年間計画	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsについて知り、関心のあるテーマについて出し合う。イメージマップから、ごみ問題が多く項目と関連していることや、環境保全が生物の保護に繋がっていることに気付く。 <p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級のごみの分別等の様子や、日本や世界のごみ問題の現状に関する資料から、ごみ問題が自分たちの生活と大きく関連していることを知り、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ問題が生物に与える影響について情報集める。 ◆インターネットや図書室の本で調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海ごみ(特にプラスチックごみ)が海洋生物に与える影響が深刻であることに気付く。 ◆班ごとにロイノートを使い、調べたことを整理する。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆班ごとにロイノートにまとめたことを発表する。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海ごみが生物に与える影響が分かったぞ。 ◆大分の海ごみの実態について調べてみたいな。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専門家と一緒に海ごみの現地調査(田ノ浦ビーチ)と清掃活動を行う。 ◆マイクロプラスチックの問題と、海洋ごみの多くが街から排出されていることを知り、課題を設定する。 ◆専門家(環境教育アドバイザー)に話を聞く。 ◆現地調査と清掃活動を行う。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海ごみを減らすために、自分たちができることについて情報集める。 ◆専門家や身近な人に話を聞く。 ◆インターネットや図書室の本で調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆調べて分かったことを出し合い、整理・分析する。 ◆マイクロプラスチックによる被害が大きな問題になっている。 ◆海ごみを回収することには限界がある。 ◆自分たちができることはないかな。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分の考えをノートにまとめ、交流する。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆現地調査から大分の海ごみの現状と原因が分かったぞ。 ◆街のごみが海ごみに繋がっていることが分かったぞ。 ◆海ごみの回収以外で、自分たちができることについて調べてみたいな。 			<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆もっと心に訴える作戦を考えようと、課題を設定する。 ◆海ごみについての問題意識をもっと広く持ってもらいにはどうしたらいいのだろう。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海ごみについて広く問題意識を持ってもらうための、心に訴える作戦について情報を集める。 ◆専門家(TRASH HERO OITA)に話を聞く。 ◆インターネットや本を活用し、他の国や地域での具体的な取組を調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆調べた結果を出し合い、整理・分析する。座標軸を使い、項目を相対的に比較する。目的に応じて、折衷案を考えるなど、折り合いの付け方を意識し話し合うことで、合意形成を図る。 ◆海ごみを使ったアートなら、参加型のワークショップもできるかも。 ◆TRASH HERO OITAのように、劇で発信する方法もあるよ。動画は関心のある人しか見てもらえないかも。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学んできたことや、自然環境保護への思いがしっかりと発信できるようアートや劇作りに取り組む。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海ごみについて、もっと広く知ってもらったり、問題意識を持ってもらったりすることが大切だと分かったよ。 ◆自分たちのごみの分別などへの意識が変わってきたよ。 ◆海ごみアートや劇をどこでどのように発信したら効果的だろう。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海ごみについて広く問題意識を持ってもらうために、海ごみアートや劇の効果的な活用を考えようと、課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報発信の在り方について、専門家から話を聞いたり、自分たちで調べたりして情報を収集する。 ◆専門家に話を聞く。 ◆インターネットや本で調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆発信する場所や方法について、調べたことを整理・分析する。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方に向けて、自分たちの学習成果を発信する。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆たくさんの人に、アートを見てもらって、大分の海ごみの現状やマイクロプラスチックについて知ってもらえたよ。 ◆これからも、自分の持っている知識や行動力を生かしたいな。 	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①) <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆目的に応じた方法・手段が必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集めた情報を比較・多面的に検討するなどして、地域の環境保全に対する意識を高めるための具体的な活動を決めている。(A-①、B-③) <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆相手や目的に応じて、環境保全に対する意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①) <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤) 	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小単元3での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①) <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆目的に応じた方法・手段が必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(B-②、C-③) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集めた情報を比較・多面的に検討するなどして、地域の環境保全に対する意識を高めるための具体的な活動を決めている。(B-③、C-②) <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆相手や目的に応じて、環境保全に対する意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①) <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③) 		

期待される概念的な知識(連携性)：環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。

地域の自然環境を保護する活動を通して、海ごみの現状や課題を解決するための活動に携わる人々について理解し、地域や身近な人の環境保全に対する意識や関わり方が広がるための方法を考えるとともに、相手意識を持って自分たちにできる取組を実践しようとするようにする。

単元名	単元の評価規準		
-----	---------	--	--

5-1

附小から発信！海ごみアート&劇プロジェクト

A 知識・技能

- ①知識
環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。(連携性)
- ②技能
環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。
- ③探究的な学習のよさ
大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動についての理解は、地域の伝統や文化を大切に守りたいと願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
地域の環境保全を目指して活動している人々の思いや願いをふまえ、自分たちの関わり方についての課題を設定するとともに、解決方法や手順を考え見通しを持って探究している。
- ②情報の収集
地域の課題やよりよい発信方法などを理解するために必要な情報を、自分なりの目的に応じた方法・手段で収集している。
- ③整理・分析
環境保全の大切さを伝えるために、事象を相手や目的、意図に応じて手段を選択し、比較したり分類したり関連付けたりするなどして考え、多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて、具体的な内容や活動を決めている。
- ④まとめ・表現
環境保全についての自分の考えを相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
課題解決に向けて、他者と協働して探究活動にすすんで取り組んでいる。
- ②自己理解・他者理解
地域の環境保全に関する取組や、それを効果的に発信する方法などについて関心をもち、自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、異なる意見や他者の考えを受け入れながら取り組もうとしている。
- ③社会参画・将来展望
環境保全についての地域の取組や、自ら行動することの大切さに気付き、環境保全に関する地域の活動に参加するとともに、地域や身近な人を元気にするためにできることを考え行動しようとしている。

【単元の目標】
 地域の自然環境を保護する活動を通して、海ごみの現状や課題を解決するための活動に携わる人々について理解し、地域や身近な人の環境保全に対する意識や関わり方が広がるための方法を考えるとともに、相手意識を持って自分たちができる取組を実践しようとするようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

- ①**知識の概念化**
 環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。(連携性)
- ②**技能**
 環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。
- ③**探究的な学習のよさ**
 大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動についての理解は、地域の伝統や文化を大切に守りたいと願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】 **【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）** **【言えそうなこと】**

一つのことをもっと知ろうと熱心に調べることができました。なぜかという、初めは、今の海の現状とか、何のごみが一番多いのかを調べていたけど、そこからもっとくわしく海ごみのことを知りたくなって、海原さんや三浦さんに来てもらい、マイクロプラスチックのことや、どうしたらたくさんの人に思いが伝わるかなどについて、たくさん聞いたり、考えたり、調べたりして、熱心に知ることができたと思うからです。

また、つながりをもって考える力がつきました。海原さんのお話を聞いたり、いっしょに海ごみを拾ったりする中で、海ごみの現状と人間の生活の仕方は、深くかかわっていることが分かりました。でも、誰が悪いかという考えではなく「なぜだろう」「人間が普段こうしているから海がこうなるんだな」とつながりがあることについて考えることができました。

幅広く多様に調べ、表現する力もつきました。お家の人の前での発表、全校に向けた劇やアートの発表など、いろいろな相手に調べたことを表現できました。どうしたら、無関心層に自分たちの伝えたいことが伝わるか、物語や役をクラスみんなで折り合いをつけながら、話し合うことができました。

- ①**大分県環境教育アドバイザーやボランティア団体の方をゲストティーチャーに招いて海ごみについての講義**
 事前に調べた海ごみの現状や原因について、専門家の話を聞いたり、環境保全活動やヒーローショーについての動画を見たりすること。また、調べても分からなかったことを実際に質問したり、さらに出てきた疑問を後日メールで質問したりという交流を繰り返し行う中で、専門家の思いや願いを理解することにつながったこと。
- ②**体験活動（劇やアート作り）、表現活動（海ごみイベント）**
 現地調査や専門家との交流、調べ学習を通して明確になった伝えたい思い（マイクロプラスチックによる影響、海ごみ回収の限界性）を効果的に発信できるように、話し合い活動を繰り返し、劇やアートを作り上げたこと。無関心層にも伝わるように国語で学んだことを活用する場面を位置付けたこと。
- ③**本やインターネット、専門家からの話などでの情報収集**
 調べれば調べるほど新たな発見や疑問点が生まれたこと。調べても分からないことは専門家に聞いて、課題を解決したいという強い思いを持たせたこと。

体験活動（劇やアート作り）
 劇やアートの構想を何度も練り直し、専門家の助言と照らし合わせ、完成度を高めていく中で、自分たちの思いを多くの人に発信する活動を創りあげていくことの魅力に迫ることができる。また、そうした活動に携わる人々の思いや苦勞に繰り返し触れる場面を位置付けたこと。



- A-①
 GTとの交流が有効である。1回ではなく複数回継続して行うと良い。
- A-②
 失敗や成功を通して伝えたいことが膨らみ、相手意識や目的意識が高まり、他教科で身に付けた力を活用し、表現方法の工夫につながる。
- A-③
 体験活動や専門家との交流をくり返す中で環境保全活動や啓発活動に携わる人々の思いや願いについて理解が深まる。

環境の単元においては、専門家に繰り返し関わり、自分たちができることを主体的に実践する体験活動等が必要である。

5年2組

一口で未来を変えよう！
5の2一口劇団

附属小 5年 2組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	環境保全のための取り組みと地域の活性化											
単元名	一口で未来を変えよう！5の2一口劇団											
単元の目標	環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を解決するための活動に携わる人々や組織について理解し、地域や身近な人の環境保全についての意識が広がるための方法を考えるとともに、相手意識をもった自分たちができる取組を実践しようとするようにする。											
年間計画	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) 大分県の環境保全についての実態を調べよう（15時間）				(小単元2のめあて) 大分県の環境の取組や実態を広める方法を考えよう（30時間）				(小単元3のめあて) 環境を守る大切さを劇にして伝えよう（25時間）			
	学習活動		育成を目指す資質・能力		学習活動		育成を目指す資質・能力		学習活動		育成を目指す資質・能力	
	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年生としての力を付けていくために、今年の総合ではどのようなテーマに挑戦していきたいか出し合う。 SDGs・コロナ対策・大分の魅力・劇 等 1～3・4年生の総合で取り組んでいない分野や、より広い視野（相手）で考えていけそうな取組に焦点を当てて課題設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大分県の環境保全に関わる取組や大分県の実態について情報を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理・分析し、自分たちができることを話し合う。 海のゴミについて調べたい。 食品ロスや貧困について考えてもらいたい。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集で整理したことをノートにまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大分県の取組に参加している人が少ない課題をどうにかできないかな。 環境を守るためにできることを発信して、発表する力を付けたいな。 	<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>インターネット等で「大分県の環境保全」について調べ、分からないことはG1を招き、質問する機会を作る。(A-①、B-②)</p> <p>集めた情報や分類したり関連付けたりして整理する。(B-③)</p> <p>目的に応じてノートにまとめている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「誰に」「何を（環境問題）」伝えと、地域を盛り上げるとともに、環境保全に繋がるか、課題を設定する。 附属四校園に伝えたいな。 広く知らせないと環境は守られないから、動画に撮って観てもらおうかな？ <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「TRASH HERO」の取組について三浦さんから話を聞いたり、食べ残しについて栄養教諭から附属小学校の実態を聞いたりして、情報を集める。 ボランティア団体「TRASH HERO」の方に話を聞く。 栄養教諭に残菜の実態を聞く。 本やインターネットで調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理・分析して、大分県の課題である「SDGs⑯つくる責任つかう責任」をどのような劇で伝えるか考える。 ヒーローものにして、「食品ロス」を減らすことを呼びかけると、小学生でも理解しやすいんじゃないかな。 大分の課題や附属小の課題のポイントを絞って、劇の内容がスッキリするように工夫しよう。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「SDGs⑯つくる責任つかう責任」について伝えたいことを劇にする。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識を詰め込んだだけで面白くないな。 これで本当に「食品ロスを減らすためにやってみよう」と思ってもらえるかな？ 「魅せ方」「伝え方」について三浦さんにもう一度聞いてみよう。 	<p>小単元1での振り返りから課題を設定する。(B-①)</p> <p>課題の解決に向けて情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較したり分類したり関連付けたりして整理している。(B-③)</p> <p>目的に応じて協働して活動している。(B-④、C-①)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるようとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大分県の課題である「SDGs⑯つくる責任つかう責任」が劇を通して附属小や地域の人に、より伝わるための課題を設定する。 「食品ロスを減らすために行動しよう」と思ってもらえる劇にするためにはどんな工夫や準備をするといいいのかな？ 地域の人が「これなら自分でもできそう」と思える取組は何かがあるかな？ <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇や芝居の工夫について、三浦さんから話を聞いたり、自分たちで調べたりして情報を収集する。 本やインターネットで調べる。 芝居のプロから話を聞く。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発信する相手を焦点化して、その相手に合った環境保全の意識を高めるための内容を整理・分析する。 日常で気をつけられる簡単なことを伝えよう。 「このままではだめだ」「行動しないと」と思ってもらえるような内容にしたいね。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方や附属小児童に向けて、自分たちの学習成果である劇を発信する。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境を守るために取り組んでいる人たちから教わったことを使ってこれからも行動していきたい。 5年生の総合で相手意識をもっと考えるようになった。 発信することや行動してもらおうことの難しさを感じた。 	<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた方法・手段に必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(B-②、C-③)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどしての環境保全意識を高めるために伝える内容を決めている。(B-③、C-②)</p> <p>相手や目的に応じて、環境保全の意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①)</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③)</p>						

期待される概念的な知識（連携性）：環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。

環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を解決するための活動に携わる人々や組織について理解し、地域や身近な人の環境保全についての意識が広がるための方法を考えるとともに、相手意識をもった自分たちにできる取組を実践しようとするようにする。

単元名 単元の評価規準

5-2	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">5の21口劇団</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">1口で未来を変えよう!</p>	<p>①知識 環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。(連携性)</p> <p>②技能 環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。</p> <p>③探究的な学習のよさ 大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動についての理解は、地域を盛り上げたいと願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①課題の設定 地域の環境保全を目指して活動している人々の思いや願いをふまえ、自分たちの関わり方についての課題を設定するとともに、解決方法や手順を考え見通しを持って探究している。</p> <p>②情報の収集 地域の課題やよりよい発信方法などを理解するために必要な情報を、自分なりの目的に応じた方法・手段で収集している。</p> <p>③整理・分析 環境保全の大切さを伝えるために、事象を相手や目的、意図に応じて手段を選択し、比較したり分類したり関連付けたりするなどして考え、多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて、具体的な内容や活動を決めている。</p> <p>④まとめ・表現 環境保全についての自分の考えを相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>⑤振り返り・知の更新 単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。</p>	<p>①主体性・協働性 課題解決に向けて、他者と協働して探究活動にすすんで取り組んでいる。</p> <p>②自己理解・他者理解 地域の環境保全に関する取組や、それを効果的に発信する方法などについて関心を持ち、自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、異なる意見や他者の考えを受け入れながら取り組もうとしている。</p> <p>③社会参画・将来展望 環境保全についての地域の取組や、自ら行動することの大切さに気付き、環境保全に関する地域の活動に参加するとともに、地域や身近な人を元気にするためにできることを考え行動しようとしている。</p>

【単元の目標】環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を解決するための活動に携わる人々や組織について理解し、地域や身近な人の環境保全についての意識が広がるための方法を考えるとともに、相手意識をもった自分たちができる取組を実践しようとするようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化
 環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信したりするために、協力して環境保全に努めていることを理解している。(連携性)

②技能
 環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。

③探究的な学習のよさ
 大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動についての理解は、地域を盛り上げたいと願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

・三浦さんの話を聞いて、三浦さんも最初はボランティアをしたけど、小さなことから言っていて、小さなことから始めたことでもこんな大きな活動につながるんだと思いました。私達もそんな気持ちにみんながなるような人たちを多くできるようにしたいです。だから、無関心層の人が「食品ロスを減らそう」と思える工夫をしたいです。

・彩先生から、去年と今年の給食の残食料を聞いて、けっこう差があったので、「どうして6月の残食が多いのか」や「ここ数年の残食の変化」なども調べて、原因を探りたいと思いました。

これから、クラスとして残食をどのように減らすか目標を決めて取り組みたいです。

・三浦さんから話を聞いて、小さなことから始まったことでもこんなに大きなボランティア活動につながるんだとびっくりしました。私達もたくさん情報を集めて、話し合ったことが劇になり、みんなが「食品ロスを減らそう」「一口チャレンジをしよう」と思ってもらえたら嬉しいです。

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①ボランティア団体「TRASH HERO」の三浦さんをゲストティーチャーに招いて活動目的や想いについて聞く。

大分県は他県に比べてSDGs関連の取組が少ないことを知った上で、実際に大分で海ゴミを減らすためにイベントや劇等をして活動している三浦さんの活動内容や想いを聞いて、「地域のため」「環境のため」様々な人と協力することの大切さや努力を理解することができた。

②附属小栄養教諭や調理員からの給食の残菜に関する実態調査
 ただ、世界のことや他県の取組や実態を調べるのではなく、身近な課題に目を向けて、解決に向けて取り組めるよう栄養教諭から給食について話を聞いてよかった。また、数回栄養教諭に話を聞くことで、工夫や苦勞など想いを聞くことができ、劇で伝えるべき内容が見えてきた。

③ゲストティーチャーや栄養教諭、調べ学習からの情報を繰り返し共有する

ゲストティーチャーから聞いた専門的な知識や活動、栄養教諭から聞いた附属小学校の実態と想い、インターネットや本で調べた情報を何度も共有し劇の内容の改善に繋げた。自分たちが主体となって調べた情報だからこそ、目的を見失わないように大切にするため、何度も確認をしていた。その繰り返し話し合いをしたことが、劇の完成につながっていた。



【言えそうなこと】

A-①
 複数回、話を聞いたりアドバイスをもらったりすることができたことが有効だった。できれば早い段階で出会わせたい。

A-②
 身近な職員からくり返し話を伺うことは、児童の意欲を持続させるためにも効果的だった。栄養教諭と一緒にやって表現活動ができるとよりよかった。

A-③
 専門家、本、インターネット等で様々な方法で調べ、何度も情報共有し、実践することが、子どもたちの達成感に繋がる。

環境の単元においては、専門家から繰り返し話を聞き、身近なことから体験活動を繰り返し行うことが大切である。

5年3組

SDGsの目標達成のために、
今、私たちができること

附属小 5年 3組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	身近な環境問題と未来を考えた行動											
単元名	SDGsの目標達成のために、今、私たちができること											
単元の目標	環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を知り、県内のSDGsの目標達成のために活動している人々の思いや願いについて理解し、環境に対する意識を高め活動を考え主体的に行動・実践できるようにする。											
	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) 一年間の学習のテーマを決めよう			(小単元2のめあて) 「大分の海」の現状を知り、自分たちにできることを考えよう			(小単元3のめあて) 自分たちにできることをやってみよう！			(小単元4のめあて) 多くの人々がSDGsに取り組んでくれるよう、発信しよう		
	学習活動		育成を目指す 資質・能力	学習活動		育成を目指す 資質・能力	学習活動		育成を目指す資質・ 能力	学習活動		育成を目指す資 質・能力
年 間 計 画	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs についての話をし、興味・関心を持たせておく。 <p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の総合では、どんなことに挑戦したいのか、自分たちにできることは何か課題を設定する。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs の中で大分の課題は何か知り、自分たちに何ができるか情報を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理する。 ◆ゴミ拾いならできな。 ◆大分県では、たくさんの方がグリーン活動に参加しているらしい。 ◆プラスチックごみでたくさん魚が死んでいるらしい。魚を救ってあげたいな。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集で整理したことをノートにまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大分県でも、SDGsの目標達成のために、様々な人が活動をしていることが分かったぞ。 ◆まずは、自分たちも海に行ってゴミ拾いしよう。 ◆本当に、海にはプラスチックごみがたくさんあるのだろうか。 		<p>自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>新聞やインターネットから必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決めている。(B-③)</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じたまとめ、テーマを決めている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田浦ビーチに出かけ、現状を確認し課題を設定する。 ◆プラスチックのゴミが非常に多い。ゴミを減らすために何ができるだろう。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットなどで、「海洋のごみ」を減らす取り組みを調べる。 ◆大分県の「おおいとうつくし作戦の推進」を取り組んでいる方に話を聞く。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理する。 ◆大分のリサイクル率は全国的にみて低い。なんとかしないとイケないな。 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集で整理したことをノートにまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大分の海を守るために、自分たちで取り組みそうなことがあるぞ。 ◆捨ててしまうごみで、何かできないかな。 		<p>小単元1での振り返りから課題を設定している。(B-①)</p> <p>専門家や身近な人、インターネットから必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討している。(B-③)</p> <p>自分の考えを目的に応じてまとめている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の活動をもとに課題を設定する。 ◆本来なら捨ててしまう物を再利用して何か作れないかな。 ◆ゴミを減らすため、プラスチックを減らすために何かできないかな。 ◆エコバックを作ったら、プラスチックを減らせるかも。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループに分かれて活動をする。 ◆自分たちでできること、取り組める情報を集める。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた結果や行った成果や課題を整理分析する。 ◆メリット デメリット ◆簡単なエコバックの作り方 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に使ってみて、感想を伝え合う。 ◆クラス・学年で講習会を開く。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分たちの周りでも、海を守るためにできることがあったぞ。クラスだけでなく、全校に広めたい。 ◆お家の人にも、自分たちの取組を知ってもらい、お家でも実践してほしいな。 		<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>活動をしている人や身近な人、インターネットから必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどして具体的な内容を決めている。(B-③)</p> <p>自分たちの生活を見直し、自分の考えを分かりやすくまとめている。(B-④、C-②)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)</p>	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の活動をもとに課題を設定する。 ◆自分たちがこれまでに学習した知識を全校やお家の人に知らせたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「何を伝えるのか」これまでの活動をもとに内容を精選し、さらに必要があれば集める。 ◆グループ活動の改善案について ◆持続可能な開発目標を達成するために、グループで取り組んだこと（エコバック・エコポーチ・本来なら捨ててしまうゴミでの再利用法） <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を吟味し、表現の方法を決める。 ◆動画配信 ◆パンフレット ◆ポスター <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校やお家の人に向けて、自分たちの学習成果を発信する。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後も、大分の海を守るために、自分たちから取り組んでいきたい。 ◆お家の人にゴミ分別シートを渡したので、活用してもらいたいな。 		<p>単元3での振り返りから課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた方法・手段に必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどして具体的な内容を決めている。(B-③)</p> <p>相手や目的に応じて、環境への意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①)</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③ B-⑤ C-③)</p>

期待される概念的な知識（創造性）：大分県の海洋ゴミ問題の現状、SDGsの目標達成のために活動している人々の思いや願いを知るとともに、自分たちにもできることを考えたり行動したりする中で、身近な実践が諸問題の改善につながることを理解する。

環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を知り、県内のSDG s の目標達成のために活動している人々の思いや願いについて理解し、環境に対する意識を高め活動を考え主体的に行動・実践できるようにする。

単元名

単元の評価規準

5-3

A 知識・技能

- ①知識
環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信して環境保全に努めていることを理解している。(創造性)
- ②技能
環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。
- ③探究的な学習のよさ
大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動について、地球を、大分を持続可能な形で利用していこうと願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
地域の環境保全を目指して活動している人々の思いや願いをふまえ、自分たちの関わり方についての課題を設定するとともに、解決方法や手順を考え見通しを持って探究している。
- ②情報の収集
地域の課題や大分のSDG s の目標達成のために活動をする人々を理解するために必要な情報を、自分なりの目的に応じた方法・手段で収集している。
- ③整理・分析
環境保全の大切さを伝えるために、事象を相手や目的、意図に応じて手段を選択し、比較したり分類したり関連付けたりするなどして考え、多様な情報の特徴を捉えながら解決に向けて、具体的な内容や活動を決めている。
- ④まとめ・表現
環境保全についての自分の考えを相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
課題解決に向けて、他者と協働して探究活動にすすんで取り組んでいる。
- ②自己理解・他者理解
地域の環境保全に関する取組や、それを効果的に発信する方法などについて関心を持ち、探究活動に向き合い、異なる意見や他者の考えを受け入れながら取り組もうとしている。
- ③社会参画・将来展望
環境保全についての地域の取組や、自ら行動することの大切さに気付き、環境保全に関する地域の活動に参加するとともに、身近にできることを考え行動しようとしている。

SDG s の目標達成のために、
今、私たちができること。

【単元の目標】
 環境保全を目指した活動を通して、大分県の現状や課題を知り、県内のSDG s の目標達成のために活動している人々の思いや願いについて理解し、環境に対する意識を高め活動を考え主体的に行動・実践できるようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

<p>①知識の概念化 環境を守るため、大分県や地域の人々が県の課題を解決したり、地域の人に発信して環境保全に努めていることを理解している。(創造性)</p>	<p>②技能 環境保全の大切さを伝えるために効果的な発信方法を選んだり、獲得した知識を関連付けて活用したりして、相手や目的、場面や状況に応じた表現方法を工夫している。</p>	<p>③探究的な学習のよさ 大分県の現状や課題解決のために取り組まれている活動について、地球を、大分を持続可能な形で利用していることや願う人々の思いについて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>
--	---	--

【子どもの振り返り】 **【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）** **【言えそうなこと】**

・大分県の混みの排出量は全国32位で、大分県のゴミを減らす取組が全国30位です。日本全国で言うと、リサイクル率がかなり低い結果になってびっくりしました。インターネットで調べてみて、大分の現状と課題が分かったので、このあと、田浦ビーチに行くのが、楽しみです。

・環境アドバイザーの海原さんと田浦ビーチのゴミ拾いをしました。田浦ビーチには、ビンや缶、かさなど、たくさんのゴミが落ちていました。海原さんの話を聞いて、ゴミの中でもプラスチックゴミが一番多いことがわかりました。プラスチックゴミを減らすために、これからどんなことをするのかクラスで話し合うのが楽しみです。

・ぼくたちのグループはエコバックをつくりました。(5年)1,2組にもエコバックの作り方を知ってもらって、作ってもらいたいと思ったので、講習会を開きました。自分たち(3組)が作った時、底がうまくいかなかったのが、みんなからのアドバイス(ミシン、手縫い)もいれました。ミシンはあっという間にできました。選べるということは自分が得意なやり方でやればいいのかととても良い方法だなと思いました。

①大分県の現状と課題の情報収集
 環境保全について考える第一歩として、自分たちが住んでいる大分県の現状は、どうなっているのか、課題はあるのか、インターネットで調べさせたこと。様々な視点でまとめ発表することにより、より広い視野が持てたこと。

②グループ別による講習会
 自分たちにできることは何か考え、3つのグループ「リサイクルグループ」「リユースグループ」「減らしたいグループ」に分かれて活動をしたこと。誰にどんなことを伝えたいのか常に単元ゴールを意識させ、それを達成するためには何をすればよいか考え試行錯誤させたこと。

③環境アドバイザー海原さんによる海ゴミに関する講話
 身近な田浦ビーチにゴミ拾いに行ったこと。大分の海の現状をインターネットで調べ、知識をもった状態で行ったが、実際は、予想よりはるかに多いゴミがあったことをGTの話や聞くことで、より知識を得た。自分たちにできることは何か、課題を解決したいという思いを持たせたこと。



A-①
 大分の現状を知ることでより意欲が高まる。

A-②
 失敗や成功を通して、伝えたいことが膨らみ、相手意識や目的意識が高まる。試行錯誤することで、よりよい方法が見つかる。

A-③
 GTとの交流が有効である。調べた内容をより深めるため、実際に現地に行き、目で確かめ、普段から活動している人から話を聞くことでより深い学びになった。

環境の単元において、身近な環境問題を考え、実際に現地を調査し、その後、どんな活動ができるか考え、やってみることが大切である。

6年1組

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

附属小 6年 1組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	防災のための安全なまちづくりとその取組																
単元名	守ろう、自分やみんなの命！危機回避、防災プロジェクト																
単元の目標	防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。																
	(4月)	(5月)	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
	(小単元1のめあて) 1年間の学習のテーマを決めよう (5時間)		(小単元2のめあて) 地震や津波などの災害から命を守るために 災害・防災について詳しくなるよう (30時間)			(小単元3のめあて) 地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろう (20時間)			(小単元4のめあて) 防災名人として、自分たちが考えたことを地域の人たちに発信しよう (15時間)								
	学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		学習活動						
	育成を目指す 資質・能力		育成を目指す 資質・能力		育成を目指す 資質・能力		育成を目指す 資質・能力		育成を目指す 資質・能力		育成を目指す 資質・能力						
年間計画	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の総合では、どんなことに挑戦していきたいのか。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの総合的な学習の時間の情報を集める。 ◆これまでの学習内容 ◆これまでに総合的な学習の時間で付けてきた力を振り返る。 ◆6年生の総合的な学習の時間で付けたい力を出し合う。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6年生の総合のテーマについて、視点を決めて整理・分析する。 ◆付けたい力を付けられるか ◆自分たちの力で達成できるか ◆身近な問題か ◆人の役に立つか <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集で整理したことを表にまとめ、適した活動テーマを決める。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆テーマが決まったから、今年は6年生全員で協力して「自分たちの力でやり遂げよう」を付けたい。 ◆防災についてこれからどんなことができそうか詳しく調べていきたい。 		<p>過去の経験から必要な情報を収集している。(B-②)</p> <p>集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決めている。(B-③)</p> <p>自分の考えを目的や意図に応じてまとめ、テーマを決めている。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるものとしている。(B-⑤)</p>		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本で起きた自然災害や大分市の地震発生確率を知ることで、自然災害や防災に対する危機感をもたせ、課題を設定する。 ◆大分の地震発生確率がこんなに高いなんて知らなかった。 ◆命に関わることだから、正しい情報を調べたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図上で避難経路を確かめたり、ハザードマップ等で地域の現状を捉えたりして必要な情報を集める。 ◆ハザードマップや地図で調べる。 ◆防災の専門家(大分大学:川田先生)に話を聞く。 ◆地域の防災士の方に話を聞く。 ◆現地調査を行う。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地調査をして分かったことを整理・分析する。 ◆身近な危険な場所 ◆身近な避難所 ◆避難ルート <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで決めた内容を安全マップにまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全校のみんなにも防災の大切さを伝えられたぞ。 ◆大切さは分かったけど、自分の家では災害対策はできているのかな。 			<p>小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>専門家や身近な人から必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどして具体的な安全マップの内容を決めている。(A-①、B-③)</p> <p>自分たちで決めた内容を相手や目的に応じてまとめ、安全マップを作成している。(B-④)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるものとしている。(B-⑤)</p>		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろうと、課題を設定する。 ◆自分の家の防災は完璧かな。 ◆自分たちがすべき対策を探って行きたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災意識に関するアンケート、未燃の備えや避難後の生活について情報を集める。 ◆家族などの身近な人に聞く。 ◆本やインターネットなどで調べる。 ◆大分市役所(防災危機管理課)の方に話を聞く。 ◆防災の専門家(大分大学:川田先生)に話を聞く。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や調べた結果を整理・分析する。 ◆十分な対策と不十分な対策の整理 ◆十分な対策が行われていない背景を分析 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災意識を高めるための安全マップの活用方法や、命を守るための取組について、視点を決めて考えをまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専門家の先生に教えてもらえてよかった。やっぱり専門家の先生はすごいな。 ◆自分の家の防災は完璧だ。家族の防災意識も高まったよ。 ◆地域の人たちの防災意識はどうか。 ◆地域の人たちのためにできることはないかな。 			<p>小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるための具体的な活動を決めている。(A-①、B-③、)</p> <p>自分たちの生活を直し、自分の考えを分かりやすくまとめている。(B-④、C-②)</p> <p>学習したことを振り返り、次の課題につながるものとしている。(B-⑤)</p>		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人々の命を守ったり、防災意識を高めたりするための課題を設定する。 ◆自分たちがこれまでに学習した知識を生かして地域の人の役に立ちたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信の在り方について、専門家から話を聞いたり、自分たちで調べたりして情報を収集する。 ◆新聞社の方に話を聞く。 ◆テレビ局の方に話を聞く。 ◆自分たちの経験を思い出したり実現可能な方法を出し合ったりする。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発信する相手を焦点化して、その人々にあった防災意識を高めるための内容を整理・分析する。 ◆災害の危険性、地域の現状 ◆未燃の備え ◆避難後の生活 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の方に向けて、自分たちの学習成果を発信する。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方にも、自然災害への備えを伝えられたよ。 ◆地域の方に聞いたら、早速実践してくれたよ。 ◆自分の力を地域の方のために使えて嬉しいな。 ◆もし災害が起こっても、自分の持っている知識や行動力を生かしたいな。 		<p>小単元3での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)</p> <p>目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(B-②、C-③)</p> <p>集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるために伝える内容を決めている。(B-③、C-②)</p> <p>相手や目的に応じて、防災意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①)</p> <p>学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③)</p>

期待される概念的な知識（連携性）：過去の災害から地域の人々が学んだ知識や経験を知るとともに、地域の人々の命を守るため、災害発生時にはそれぞれの立場や状況に応じた行動している人がいることや、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解する。

防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元名

単元の評価規準

6-1

A 知識・技能

- ①知識
地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。(連携性)
- ②技能
地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。
- ③探究的な学習のよさ
自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに関わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
地域の防災の在り方や防災意識について、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。
- ②情報の収集
地域における自然災害の状況や地域住民の防災意識を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。
- ③整理・分析
地域住民の防災意識を高める活動を進めるために、収集した情報や調査結果を比較したり、多面的に検討したりして、理由や根拠を明らかにして具体的な活動を決定している。
- ④まとめ・表現
防災意識を高め、自分たちの生活を見直し、行動化を図ることに向けた自分の考えを、表現の目的に応じて表現方法を選択し、伝える相手を踏まえて分かりやすくまとめている。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
防災意識を高め、生活に生かす必要性を伝えるために、防災に関わる人々や友達などと協働して探究活動に取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
地域の防災の在り方に関心を持ち、自分の生活を防災の視点から見直したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりしながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。
- ③社会参画・将来展望
自分と防災や関係機関とのつながりに気づき、防災に関する地域の活動に参加するとともに、自他の命を守るためにできることを考え行動しようとしている。

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

【単元の目標】

防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化

地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。（連携性）

②技能

地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。

③探究的な学習のよさ

自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに携わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

一年間、学年全体で防災のことを学んできました。最初はどんな災害があったのか、とか、災害のメカニズムなどを調べたいと思い、関係する情報を収集・整理してきました。調べたことや考えたことをまとめてポスターセッションをしました。家族や地域の人たちにも見てもらい、アンケートを取った結果、もっと自分たちの身近なものを知りたいという意見をもらいました。そこで、自分たちで実際に避難所生活を体験してみたいと思い、熊本地震で被災した森江先生から話を聞き、避難所運営の方法や避難所生活での困りなどを学びました。

各クラスで役割分担をして自分たちで実際に体験してみると、思っていたよりも困ったことや大変なことがわかりました。また、本で調べたことや話を聞いたことが本当だったということも体験できました。

70時間の学習の中で付いた力は、一人ではできなかったことを「周りの人と協力して解決する力」や自分の知りたいことを「調べる力」がつかえました。地震のメカニズムを調べたり、避難所運営での困りをチームのメンバーと工夫して解決していこうとしたからです。

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①ゲストティーチャーに招き、過去の大分の災害や熊本地震についての講義

事前に調べた災害の種類やその発生の仕方について、専門家の話を直接聞いたり、熊本地震で被災された方とオンラインで交流したりすること。また、調べても分からなかったことを実際に質問したり、さらに出てきた疑問を後日メールで質問したりという交流を繰り返し行う中で、専門家の思いや願いを理解することにつながったこと。



②オープンスクールを利用し、地域の方や保護者にアンケートを実施

オープンスクールの際に学習したことをもとにアンケートを実施。自分たちの学びがどのように実生活に繋がっているのかを客観的につかませること。



③本やインターネットを利用し、情報収集

自分のテーマを調べていくことで、新たな発見や気づきを自覚させること。

体験活動（避難所生活）

適度な困難さがあり、事前に学習してきたことを生かす達成感から、防災に対しての事前準備の大切さに気付くことができる。災害への備えの大切さや避難所での困りや気づきに触れる場面を位置付けたこと。



【言えそうなこと】

A-①

ゲストティーチャーとのかかわりが大切である。可能であれば複数回行うと有効。

A-②

独りよがりの学習にならないために、自分たちの学習が普段の生活にどのようにかかわっているのかを気付かせることが必要。

A-③

本やインターネットなどで調べたことを実践する場が必要。学んで得た知識を活用する場面を設定することで、真身に付く。

体験活動は可能であれば、長時間確保していくことで困りに気づきやすくなる。

6年2組

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

附属小 6年 2組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	防災のための安全なまちづくりとその取組											
単元名	守ろう、自分やみんなの命！危機回避、防災プロジェクト											
単元の目標	防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。											
	(4月)	(5月)	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	(小単元1のめあて) 1年間の学習のテーマを決めよう (5時間)		(小単元2のめあて) 地震や津波などの災害から命を守るために 災害・防災について詳しくなるう (30時間)			(小単元3のめあて) 地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろう (20時間)			(小単元4のめあて) 防災名人として、自分たちが考えたことを地域の人たちに 発信しよう(15時間)			
年 間 計 画	学習活動	育成を目指す 資質・能力	学習活動	育成を目指す資 質・能力	学習活動	育成を目指す 資質・能力	学習活動	育成を目指す 資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力		
	【課題の設定】 ・今年の総合では、どんなことに挑戦していきたいのか。		【課題の設定】 ・日本で起きた自然災害や大分市の地震発生確率を知ること、自然災害や防災に対する危機感をもたせ、課題を設定する。 ◆大分の地震発生確率がこんなに高いなんて知らなかった。 ◆命に関わることだから、正しい情報を調べたいな。	小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)	【課題の設定】 ・地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろうと、課題を設定する。 ◆自分の家の防災は完璧かな。 ◆おうちの人や地域の方が知りたいことってなんだろう。 ◆自分たちがすべき対策を探って行きたいな。	小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)	【課題の設定】 ・地域の人々の命を守ったり、防災意識を高めたりするための課題を設定する。 ◆自分たちがこれまでに学習した知識を生かしておうちの人や地域の方々の役に立ちたいな。	小単元3での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①)				
	【情報収集】 ・これまでの総合的な学習の時間の情報を集める。 ◆これまでの学習内容 ◆これまでに総合的な学習の時間で付けた力を振り返る。 ◆6年生の総合的な学習の時間で付けた力を出し合う。		【情報収集】 ・地図上で避難経路を確かめたり、ハザードマップ等で地域の現状を捉えたりして必要な情報を集める。 ◆ハザードマップや地図で調べる。 ◆防災の専門家(先哲史料館の方)に話を聞く。 ◆実際に被災した方に話を聞く。 ◆現地調査を行う。	専門家や身近な人から必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②)	【情報収集】 ・アンケートに関するアンケート、未然の備えや避難後の生活について情報を集める。 ◆家族などの身近な人に聞く。 ◆本やインターネットなどで調べる。 ◆実際に一日避難所生活体験をする。 ◆地域の避難所になっている施設の方(西部公民館：館長さん)に話を聞く。	目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②)	【情報収集】 ・情報発信の在り方について、可能な方法を自分たちで調べて情報を収集する。 ◆先哲史料館の方に可能な方法を尋ねる。 ◆インターネットなどで調べる。 ◆自分たちの経験を思い出したり実現可能な方法を出し合ったりする。	目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(B-②、C-③)				
	【整理・分析】 ・6年生の総合のテーマについて、視点を決めて整理・分析する。 ◆付けた力を付けられるか ◆自分たちの力で達成できるか ◆身近な問題か ◆人の役に立つか	集めた情報を比較・分類・関連付けなどして具体的な内容を決めている。(B-③)	【整理・分析】 ・現地調査をして分かったことを整理・分析する。 ◆大分の過去の災害 ◆身近な危険な場所 ◆身近な避難所 ◆避難ルート	集めた情報を比較・多面的に検討するなどして具体的な安全マップの内容を決めている。(A-①、B-③)	【整理・分析】 ・アンケート調査や調べた結果を整理・分析する。 ◆実際に「おうちの方や地域の方が知りたいこと」の整理 ◆一日避難所生活体験をして気付いたことの整理・分析 ◆話を聞いて新たに分かったことの整理	集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるための具体的な活動を決定している。(A-①、B-③)	【整理・分析】 ・発信する相手を焦点化して、その人々にあった防災意識を高めるための発信方法を整理・分析する。 ◆動画にまとめて広める(全校) ◆パンフレットにまとめて大分県にて配布(地域の方、家族)	集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるために伝える方法を決定している。(B-③、C-②)				
	【まとめ・表現】 ・情報収集で整理したことを表にまとめ、適した活動テーマを決める。	自分の考えを目的や意図に応じてまとめ、テーマを決めている。(B-④)	【まとめ・表現】 ・自分たちで決めた内容を模造紙にまとめる。	自分たちで決めた内容を相手や目的に応じてまとめ、安全マップを作成している。(B-④)	【まとめ・表現】 ・防災意識を高めるために伝えるべき内容や、命を守るための取組について、視点を決めて考えをまとめる。	自分たちの生活を見直し、自分の考えを分かりやすくまとめている。(B-④、C-②)	【まとめ・表現】 ・家族や地域の方に向けて、自分たちの学習成果を発信する。	相手や目的に応じて、防災意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①)				
【振り返り・知の更新】 ◆テーマが決まったから、今年は6年生全員で協力して「自分たちの力でやり遂げる力」を付けたい。 ◆防災についてこれからどんなことができそうか詳しく調べていきたい。		【振り返り・知の更新】 ◆学年のみんなでこれまで学んできたことを伝え合って、さらに防災の意識が高まったぞ。 ◆大切さは分かったけど、自分の家では災害対策はできているのかな。 ◆地域の方々の防災意識はどうかな。	学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)	【振り返り・知の更新】 ◆専門家の先生に教えてもらえてよかった。やっぱり専門家の先生はすごいな。 ◆実際に防災グッズも使ってみて、自分の家の防災は完璧だ。 ◆おうちの人や地域の方々のためにできることはないかな。	学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤)	【振り返り】 ◆地域の方にも、自然災害への備えを伝えられたよ。早速実践してくれたい。 ◆もし災害が起こっても、自分の持っている知識や行動力を生かしたいな。	学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、C-③)					

期待される概念的な知識(連携性)：過去の災害から地域の人々が学んだ知識や経験を知るとともに、地域の人々の命を守るため、災害発生時にはそれぞれの立場や状況に応じて行動している人がいることや、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解する。

防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元名	単元の評価規準		
-----	---------	--	--

6-2

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

A 知識・技能

- ①知識
地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。(連携性)
- ②技能
地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。
- ③探究的な学習のよさ
自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに関わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
地域の防災の在り方や防災意識について、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。
- ②情報の収集
地域における自然災害の状況や地域住民の防災意識を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。
- ③整理・分析
地域住民の防災意識を高める活動を進めるために、収集した情報や調査結果を比較したり、多面的に検討したりして、理由や根拠を明らかにして具体的な活動を決定している。
- ④まとめ・表現
防災意識を高め、自分たちの生活を見直し、行動化を図ることに向けた自分の考えを、表現の目的に応じて表現方法を選択し、伝える相手を踏まえて分かりやすくまとめている。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
防災意識を高め、生活に生かす必要性を伝えるために、防災に関わる人々や友達などと協働して探究活動に取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
地域の防災の在り方に関心を持ち、自分の生活を防災の視点から見直したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりしながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。
- ③社会参画・将来展望
自分と防災や関係機関とのつながりに気付く、防災に関する地域の活動に参加するとともに、自他の命を守るためにできることを考え行動しようとしている。

【単元の目標】

防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

①知識の概念化

地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。（連携性）

②技能

地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。

③探究的な学習のよさ

自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに関わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】

・おうちの人や地域の人などにアンケートを取った時、思っていたよりも防災バッグを使ったことのある人が少なく、実際に避難した時に防災バッグを持っていても使っていない人もいたのだと思いました。避難所での生活や非常食・防災食の作り方について知りたい人が多くて、自分たちがこれからやりたいことと合っていたので、防災の大切さについて伝えるための体験ができそうです。

・一日避難所生活体験をして、一人一人の生活スペースが小さかったり、物が散らかったりしていて、ここで何日も生活するのはかなりきついただろうなと思いました。西部公民館の館長さんの話を聞いて、年に3回避難訓練をしていたことや、公民館には食料を備蓄していないことを初めて知りました。西部公民館にはいろんな災害に対応できているぞと思いました。

・一日避難所生活体験をして、思っていたよりも寒かったです。西部公民館の館長さんも来てくれて案内板の話や避難のマークの話など、日頃から使えるということを知ることができ、さらに防災について意識が高まったと思います。もし、避難所に行った時のために防災についてさらに調べ、伝えたいと思います。

【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）

①西部公民館の館長さんによる実際の避難所に関する講話

これまで自分たちが体験したり調べたりして獲得した知識とともに、多様な立場の人たちとの交流や対話を通してきたからこそ、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めているということの理解につながった。



②おうちの方や地域の方を対象としたアンケートによる情報収集

自分たちが伝えたいと思っている相手が知りたいことや興味あることは何かということ、10月のオープンスクールを活用して、実際に伝える相手を対象にアンケートを実施したこと。おうちの方や地域の方に聞きたいこと、どんな情報が集まれば今後の学習に活かすことができるかということを考えてアンケートを作成するよう伝えた。また、どのような形が集計したり話し合ったりする際に使いやすいかということも考え、タブレットを活用してアンケートを取った。



③様々な立場のゲストティーチャーによる講話からの情報収集

調べれば調べるほど新たな発見や疑問点が生まれたため、調べても分からないことは専門家に聞いて、課題を解決したいという強い思いを持たせたこと。防災・減災・被災後と様々な視点での発見・疑問があるであろうことで、先哲史料館の方や実際に被災した方、実際に避難所となっている公民館の館長さんなど、様々な立場の方との出会いの場を設定したこと。



【言えそうなこと】

A-①

GTとの交流が有効である。防災に関しては幅が広いので、知識が全くない状態よりも、自分たちで調べて知識を得た後に交流の場を設定する方が、より深い学びにつながる。

A-②

情報収集の技能を高めるためには、①防災意識を捉える②アンケートの内容③方法の適切さを繰り返し検討すること④収集した情報の活用⑤収集した情報の処理方法を見通しておくことが大切である。

A-③

様々な立場の専門家の方との交流の場を設定することで、防災・減災・被災後と様々な視点で自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることに気付くことができる。

防災の単元においては、学校の身近な避難所や専門家に繰り返し関わり、防災グッズの活用や避難所生活体験等の体験活動が有効である。

6年3組

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

附属小 6年 3組 総合的な学習の時間 年間指導計画（70時間）

探究課題	防災のための安全なまちづくりとその取組												
単元名	守ろう、自分やみんなの命！危機回避、防災プロジェクト												
単元の目標	防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。												
	(4月)	(5月)	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	(小単元1のめあて) 1年間の学習のテーマを決めよう (5時間)		(小単元2のめあて) 地震や津波などの災害から命を守るために 災害・防災について詳しくなろう (30時間)			(小単元3のめあて) 地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろう (20時間)			(小単元4のめあて) 防災名人として、自分たちが考えたことを地域の人たちに 発信しよう (15時間)				
	学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		学習活動		
	育成を目指す 資質・能力		育成を目指す資 質・能力		育成を目指す資 質・能力		育成を目指す 資質・能力		育成を目指す資 質・能力		育成を目指す資質・能力		
年 間 計 画	<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の総合では、どんなことに挑戦していきたいのか。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの総合的な学習の時間の情報を集める。 ◆これまでの学習内容 ◆これまでに総合的な学習の時間で付けた力を振り返る。 ◆6年生の総合的な学習の時間で付けた力を出し合う。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆6年生の総合のテーマについて、視点を決めて整理・分析する。 ◆付けた力を付けられるか ◆自分たちの力で達成できるか ◆身近な問題か ◆人の役に立つか <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報収集で整理したことを表にまとめ、適した活動テーマを決める。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆テーマが決まったから、今年は6年生全員で協力して「自分たちの力でやり遂げる力」を付けたい。 ◆防災についてこれからどんなことができそうか詳しく調べていきたい。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日本で起きた自然災害や大分市の地震発生確率を知ること、自然災害や防災に対する危機感をもたせ、課題を設定する。 ◆大分の地震発生確率がこんなに高いなんて知らなかった。 ◆命に関わることだから、正しい情報を調べたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地図上で避難経路を確かめたり、ハザードマップ等で地域の現状を捉えたりして必要な情報を集める。 ◆ハザードマップや地図を調べる。 ◆防災の専門家（先哲史料館の方）に話を聞く。 ◆実際に被災した方に話を聞く。 ◆現地調査を行う。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆現地調査をして分かったことを整理・分析する。 ◆身近な危険な場所 ◆身近な避難所 ◆避難ルート <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分たちで決めた内容を安全マップにまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学年のみんなでこれまで学んできたことを伝え合って、さらに防災の意識が高まったぞ。 ◆大切さは分かったけど、自分の家や地域の方々の防災意識はどうか。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小単元1での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①) <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専門家や身近な人から必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集めた情報を比較・多面的に検討するなどして具体的な安全マップの内容を決めている。(A-①、B-③) <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分たちで決めた内容を相手や目的に応じてまとめ、安全マップを作成している。(B-④) <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤) 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の人々の命を守るために、自分たちが防災名人になろうと、課題を設定する。 ◆自分の家の防災は完璧かな。 ◆お家の方や地域の方が知りたいことってなんだろう。 ◆自分たちがすべき対策を探って行きたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆避難所生活や避難所運営、防災意識に関するアンケート、未然の備えについて情報を集める。 ◆家族などの身近な人に聞く。 ◆本やインターネットなどで調べる。 ◆大分市役所（防災危機管理課）の方に話を聞く。 ◆地域の避難所になっている施設の方（西部公民館：館長さん）に話を聞く。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆避難所生活や避難所生活の課題や成果、アンケート調査や調べた結果を整理・分析する。 ◆実際におうちの方や地域の方が知りたいことの整理 ◆一日避難所生活体験をして気付いたことの整理・分析 ◆話を聞いて新たに分かったことの整理 <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆防災意識を高めるために伝えるべき内容や、命を守るための取組について、視点を決めて考えをまとめる。 <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専門家の先生に教えてもらえてよかった。やっぱり専門家の先生はすごいな。 ◆実際に防災グッズも使ってみて、自分の家の防災は完璧だ。 ◆家族の防災意識も高まったよ。 ◆地域の人のためにできることはないかな。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小単元2での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①) <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(A-②、B-②) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるための具体的な活動を決めている。(A-①、B-③、) <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分たちの生活を見直し、自分の考えを分かりやすくまとめている。(B-④、C-②) <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習したことを振り返り、次の課題につなごうとしている。(B-⑤) 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の人々の命を守ったり、防災意識を高めたりするための課題を設定する。 ◆自分たちがこれまでに学習した知識を生かして地域の人役に立ちたいな。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報発信の在り方について、専門家から話を聞いたり、自分たちで調べたりして情報を収集する。 ◆西部公民館の館長さんに可能な方法を尋ねる。 ◆先哲資料館の方に可能な方法を尋ねる。 ◆自分たちの経験を思い出したり実現可能な方法を出し合ったりする。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆発信する相手を焦点化して、その人々にあった防災意識を高めるための内容を整理・分析する。 ◆パンフレットやリーフレットなどにまとめて公民館に配布（地域の方） <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方に向けて、自分たちの学習成果を発信する。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方にも、自然災害への備えを伝えられたよ。 ◆自分の力を地域の方のために使えて嬉しいな。 ◆もし災害が起ころうと、自分の持っている知識や行動力を生かしたいな。 		<p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小単元3での振り返りや自分の関心から課題を設定している。(B-①) <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆目的に応じた方法・手段で必要な情報を収集したり蓄積したりしている。(B-②、C-③) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集めた情報を比較・多面的に検討するなどして地域住民の防災意識を高めるために伝える内容を決めている。(B-③、C-②) <p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆相手や目的に応じて、防災意識を高めるために伝えたいことを表現している。(B-④、C-①) <p>【振り返り・知の更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習したことを振り返り、今後の自分自身の生活に生かそうとしている。(A-③、B-⑤、C-③)

期待される概念的知識（連携性）：過去の災害から地域の人々が学んだ知識や経験を知るとともに、地域の人々の命を守るため、災害発生時にはそれぞれの立場や状況に応じて行動している人がいることや、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解する。

防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元名	単元の評価規準		
-----	---------	--	--

6-3

守ろう、自分やみんなの命！
危機回避、防災プロジェクト

A 知識・技能

- ①知識
地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。(連携性)
- ②技能
地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。
- ③探究的な学習のよさ
自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに関わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

B 思考・判断・表現

- ①課題の設定
地域の防災の在り方や防災意識について、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。
- ②情報の収集
地域における自然災害の状況や地域住民の防災意識を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。
- ③整理・分析
地域住民の防災意識を高める活動を進めるために、収集した情報や調査結果を比較したり、多面的に検討したりして、理由や根拠を明らかにして具体的な活動を決定している。
- ④まとめ・表現
防災意識を高め、自分たちの生活を見直し、行動化を図ることに向けた自分の考えを、表現の目的に応じて表現方法を選択し、伝える相手を踏まえて分かりやすくまとめている。
- ⑤振り返り・知の更新
単元で学習したことを振り返り、次の学習や日常生活につなげて考え、生かそうとしている。

C 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性・協働性
防災意識を高め、生活に生かす必要性を伝えるために、防災に関わる人々や友達などと協働して探究活動に取り組もうとしている。
- ②自己理解・他者理解
地域の防災の在り方に関心を持ち、自分の生活を防災の視点から見直したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりしながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。
- ③社会参画・将来展望
自分と防災や関係機関とのつながりに気付く、防災に関する地域の活動に参加するとともに、自他の命を守るためにできることを考え行動しようとしている。

【単元の目標】
 防災のための安全なまちづくりを目指した活動を通して、地域の防災とそれに携わる人々や組織について理解し、自分たちの地域の防災の在り方について考えるとともに、自分たちの生活を防災の視点から見直し実践しようとするようにする。

単元の評価規準【A知識・技能】

- ①**知識の概念化**
 地域の人々の命を守るため、地域の人々がそれぞれの立場や状況に応じて、互いに協力して災害の防止に努めていることを理解している。（連携性）
- ②**技能**
 地域住民等の防災意識を捉えるために、アンケートによる調査を相手や場面、目的に応じた適切さで実施している。
- ③**探究的な学習のよさ**
 自分たちの生活と防災のあり方が密接に関わっていることへの理解は、地域の防災とそれに携わる人々との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

【子どもの振り返り】	【要因】 ※教師の手立て（指導の立場からの分析）	【言えそうなこと】
------------	--------------------------	-----------

台風の時に、傘立てを校舎の中に入れたり、雑巾掛けをプレイルームの中に入れたりするのは大袈裟かなどと思ったけど、当日になって風の強さに驚いたと入れて良かった。家では、台風に備えてシャッターを閉めて、被害が出ないようにした。他にも、飛んでいきそうなものや大切なものは家の中に入れてしっかり保管した。

避難所運営の課題というのを館長さんに答えてもらったんだけど、配慮を要する方（乳幼児・高齢者・妊婦さんなど）への支援が必要というのを聞いて確かなと思った。なぜなら、設備が整っていても部屋分けは大変だと思うのに、設備が整っていないければ、もっと大変だと思ったから。

避難所運営は3回して、1回目は良かった所より課題の方が多かったんだけど、2回目3回目は役を増やしたり計画的に動けた。

避難所運営は、最初は上手いかわない場面もあったけど、「次の時はこうしよう」とみんなで考えて運営できて、だんだん良くなっていったので良かったと思う。実際の場面を想定できていたところも良かった。

運営側は疲れるなと思った。なぜなら、夜中にならずに見回りをしないといけないし、休む暇が少なかったからです。ただ、疲れただけでなくたくさん見回りをしたからこそ新しい発見が見つかった。もし、災害が実際に起きたらもっとパニックって運営側は適切な対応ができなかったり、被災者を介護するための設備が揃っていないかもしれないから、今度館長さんに聞いてみたい。

①防災教育と日常の自然災害（台風）を関連付ける授業
 総合的な学習の内容と日常生活を関連付ける授業を行うこと。子ども達は、知識が豊富で授業では探究した学習を進めることができている。実際に災害が起こったり、起こる前にどのような行動をすればよいのかも既存の知識や考えることで発言することができる。しかし、日常の生活と結びつけて自ら行動することが難しい。そこで、台風が近づいてきた際に、防災教育と実際の生活でできることを考えさせる授業を行った。その中で、数名ではあるが知識を生かした行動に結びつけ、傘立てを校舎内に入れて下校することができた。

②西部公民館の館長さんによる実際の避難所に関する講話
 これまで調べてきた知識と体験活動と比べながら専門家の話を聞いたり実際の避難所の様子を写真で見たりすること。また、自分たちが学習してきた中で疑問に思っていたことや、話を聞く中で新たに生まれた疑問を実際に質問を繰り返して行うことで解決すること。初めて大人数の学年全体で避難所生活・運営を行う中で、館長さんの話とこれまでの振り返りをもとに、これまでと異なる状況の中ではあるが、避難所生活の場面を想定して、互いに協力して避難所運営を行った。

③試行錯誤しながら行った3回の避難所
 防災教育を行っていく中で、避難所生活ではなく避難所運営する視点をもたせて体験させたこと。1回目は、自分達が想像していることとインターネットで調べたことで体験させた。振り返りから出された多くの課題を改善していくために、話し合ったり調べたりして、2回目の体験をさせたこと。その中で、自分達だけでは解決することは難しいということから、専門家の話を聞く場の設定につながったこと。



A-①
 日常生活と授業を結びつけるための手立が必要である。児童は、授業と日常生活を別のこととして捉えがちであるため、自分達が行動に結びつけられそうな場面で考えさせることが、実践的な学びにつながる。

A-②
 自分達で体験してきたことを、専門家の話を聞くことで、相手意識や目的意識が高まり、自分達の伝えたいことを伝えるための活動の工夫や改善につながる。

A-③
 試行錯誤させながら、体験させることで自分達で課題を見つけ、振り返りをもとに改善していくサイクルを設定することが大切である。適切な場面でアドバイスをすると次のサイクルにつながっていく。

防災の単元においては、学校の身近な避難所や専門家に繰り返し関わり、防災グッズの活用や避難所生活体験等の体験活動が必要である。